

B1FH-1371-01

GRANPOWER5000 モデル 170

取扱説明書

FUJITSU

ごあいさつ

このたびは、弊社の GRANPOWER5000 モデル 170 をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

GRANPOWER5000 モデル 170 は、優れたネットワーク・パフォーマンスを実現するため、高い処理能力、拡張性、信頼性を備えたサーバです。

本書は、GRANPOWER5000 モデル 170 の取り扱い方法や周辺装置との接続方法など、基本的なことからを解説しています。

本書をご覧になり、GRANPOWER5000 モデル 170 を正しくお使いいただきますよう、お願いいたします。

1997 年 11 月

当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じことがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお薦めします。

(社団法人日本電子工業復興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づく第一種情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本装置は、社団法人日本電子工業復興協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

高周波ガイドライン適合品

安全にお使いいただくために

本書には、本サーバを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
本サーバをお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の冒頭の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解された上で本サーバをお使いください。

また、本書は、本サーバの使用中にいつでも参照できるよう大切に保管してください。

IBM は、米国 International Business Machines Corporation の登録商標です。

EGA/VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。

Pentium および LANDesk は、米国インテル社の登録商標です。

Adaptec は、米国 Adaptec 社の登録商標です。

SCSISelect は、米国 Adaptec 社の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

NetWare は、米国ノベル社の登録商標です。

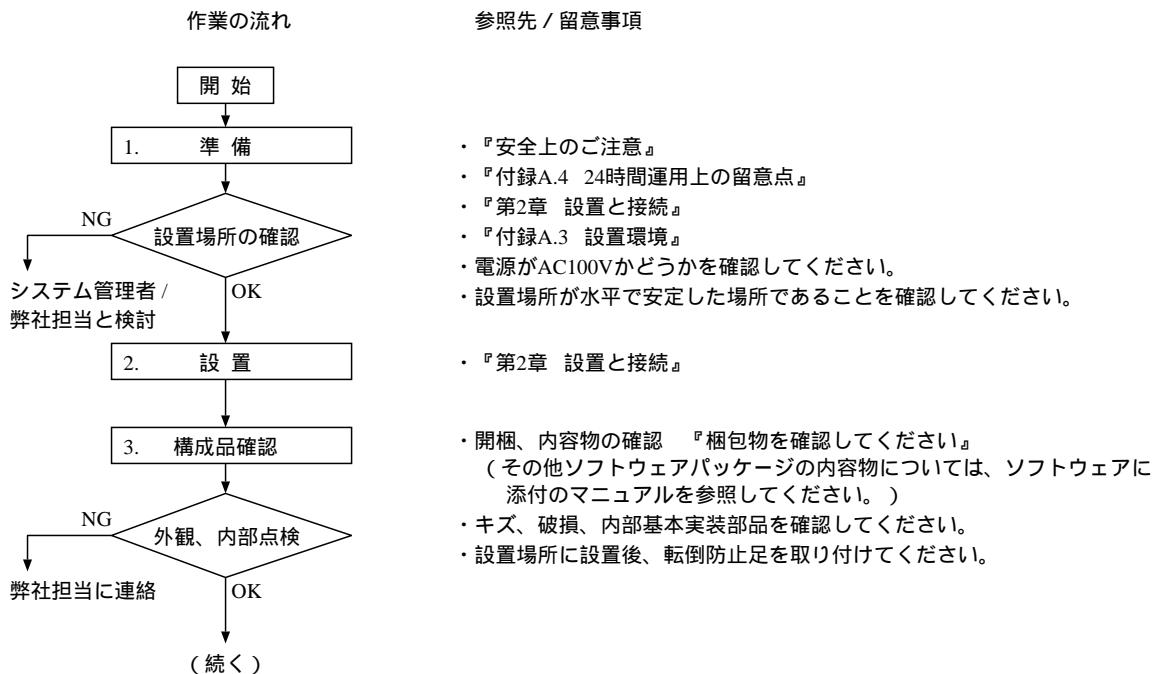
IntranetWare、GroupWise は米国ノベル社の米国における商標です。

その他の各製品は、各社の商標または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

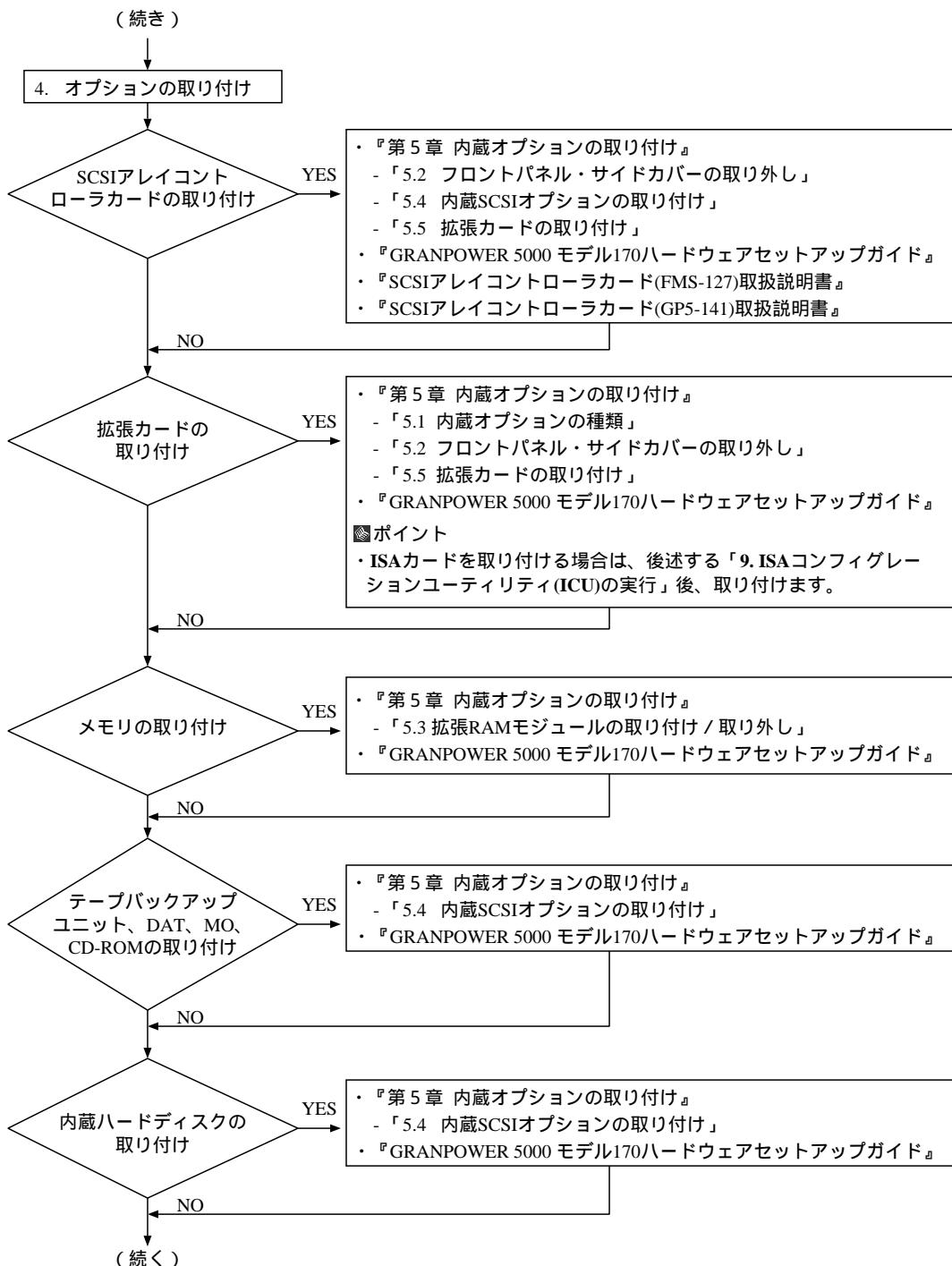
セットアップのフローチャート

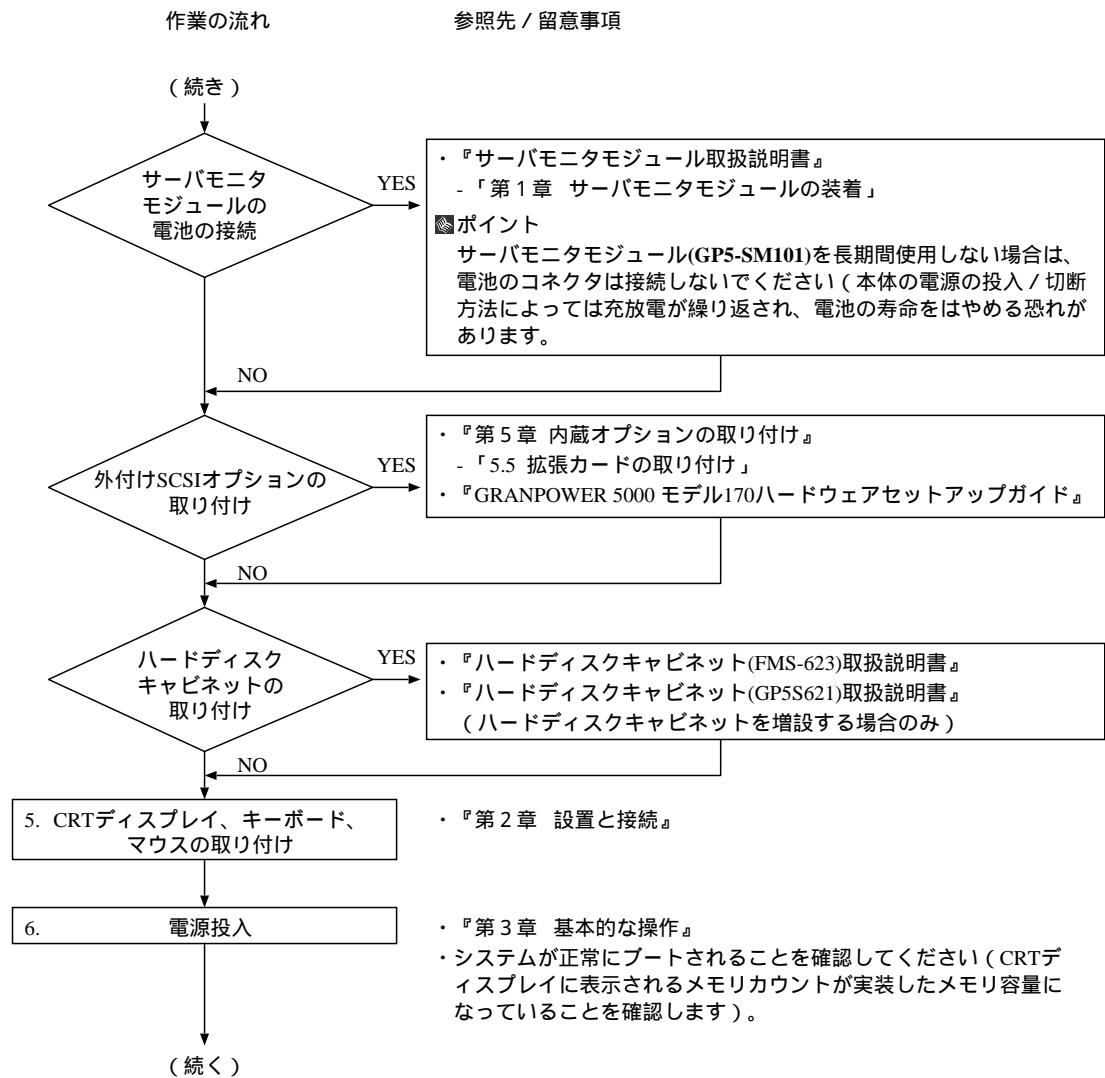
各種作業時に参照するページは以下のとおりです。



作業の流れ

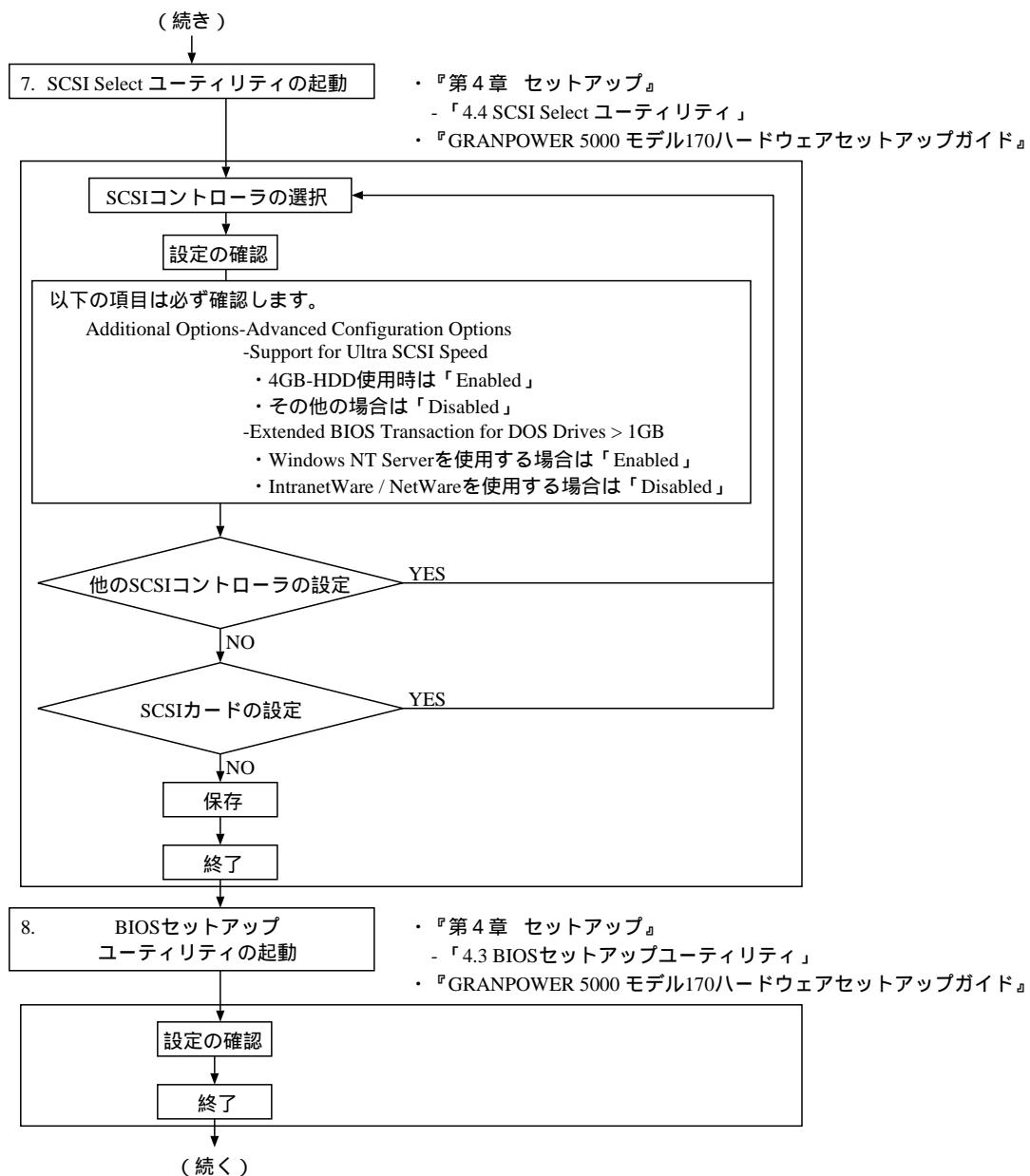
参照先 / 留意事項





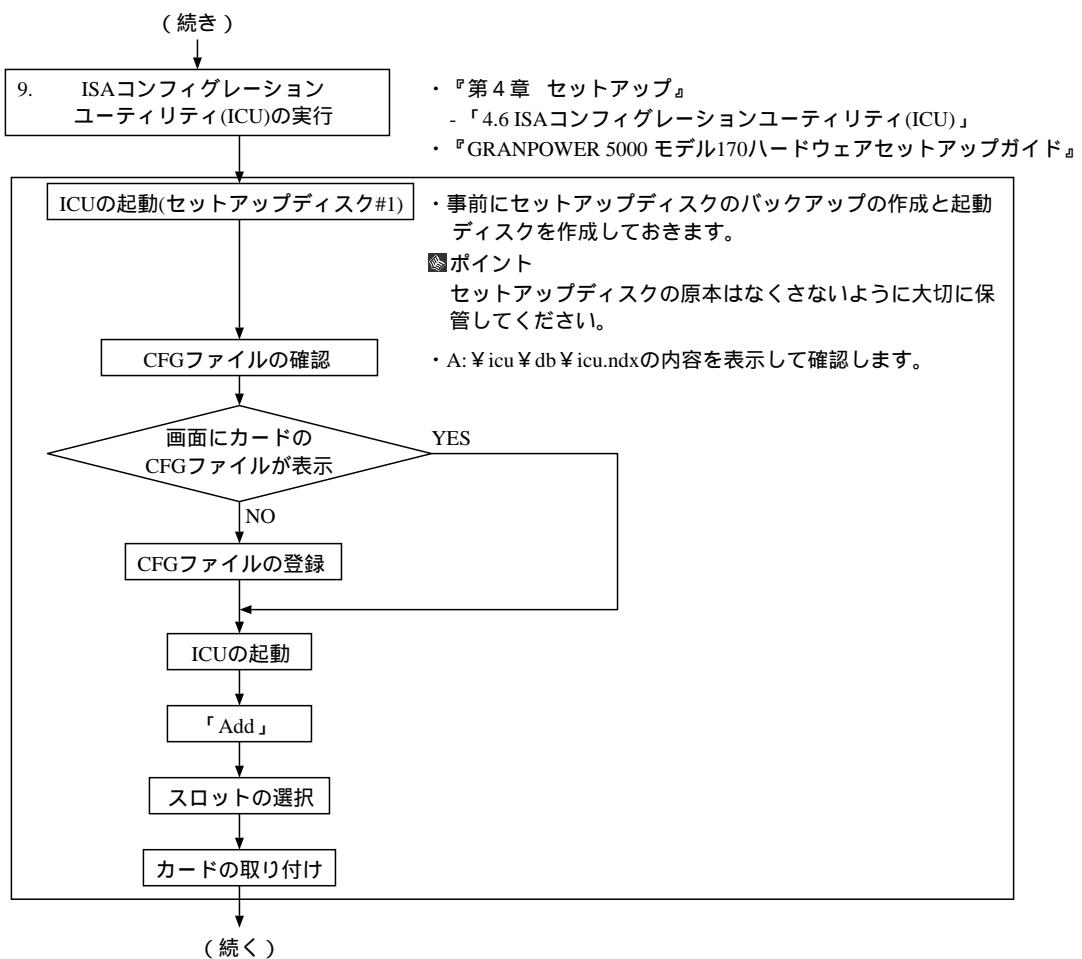
作業の流れ

参照先 / 留意事項



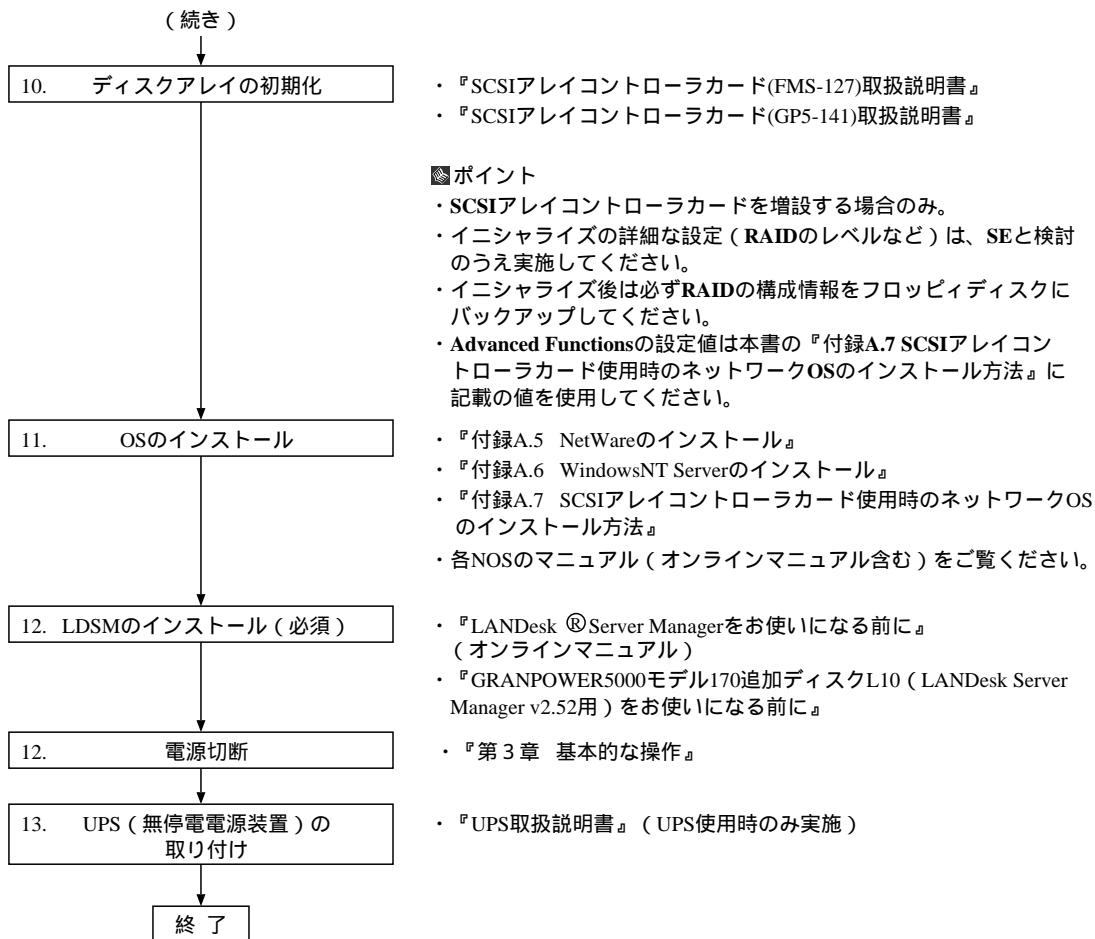
作業の流れ

参照先 / 留意事項



作業の流れ

参照先 / 留意事項

**■ポイント**

うまく動作しない場合は、次の箇所を再度参照してください。

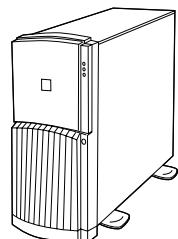
- ・『第6章 故障かな?と思う前に』
- ・『第2章 設置と接続』
- ・『第4章 セットアップ』
- ・『第5章 内蔵オプションの取り付け』
- ・『GRANPOWER5000 モデル170ハードウェアセットアップガイド』

それでも、状態が改善しない場合は、『第6章 故障かな?と思う前に』の「保守員に連絡するときは」をご覧のうえ、弊社担当保守員までご連絡ください。

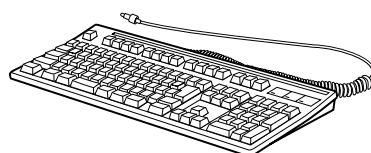
梱包物を確認してください

箱の中に次の品物がそろっているか確認してください。万一、欠品などがありましたら、担当営業員までお申しつけください。

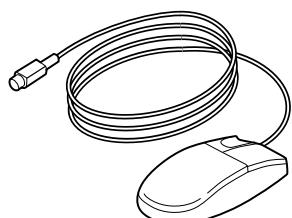
GRANPOWER5000モデル170



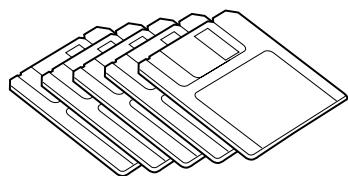
キーボード



マウス

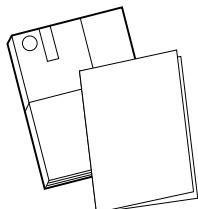


セットアップディスク 1 ~ 5
(3.5" フロッピィディスク5枚)

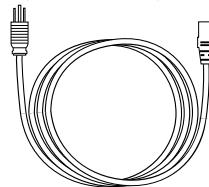


GRANPOWER5000モデル170

- ・取扱説明書
(本書)
- ・ハードウェア
セットアップ
ガイド



電源ケーブル
(サーバ本体用)



その他の添付媒体
・LANドライバ
・LANDesk® Server Manager

ソフトウェア

より詳しい内容はパッケージ
内の梱包物をご覧ください。
(NOSインストールモデルのみ)

その他の添付品

- ・サーバモニタモジュール拡張機能用ケーブル

ポイント

梱包箱および梱包材について

梱包箱および梱包材は、GRANPOWER5000 モデル 170 を保管するときや移動するときに必要になります。保管しておいてください。

注意

運用上の注意点(重要)

LDSMは必ずインストールしてください。

本サーバには、LANDesk® Server Manager ソフトウェア（以降 LDSM と呼びます）が添付されています。LDSM は、万一、内蔵部品（例：RAID 構成時のハードディスクユニット、FAN、メモリ、CPU、内蔵ハードディスクユニットなど）の故障や動作異常が発生した場合、LDSM がそれらの状況を監視してエラーメッセージを管理者に通知したり、エラーロギングを蓄積するなどの重要な動作をします。なお、拡張 IDE 規格のハードディスクユニットに対しては監視できません。LDSM をインストールしないで本サーバを運用した場合、以下のようないくつかの問題が発生する可能性がありますのでご注意ください。

- SCSI アレイコントローラカードを使用し、アレイシステム（RAID5）を構成している場合に、あるハードディスクユニットが故障したにもかかわらず、これに気づかないで運用を続け、さらに他のハードディスクユニットが故障した場合には、サーバ本体内部のすべてのファイルが紛失および破壊されます。

LDSM のインストールや LDSM メッセージ内容などの詳細は、本サーバ添付の以下のマニュアルを参照してください。

- 「LANDesk® Server Manager をお使いになる前に」（オンラインマニュアル）
- 「GRANPOWER5000 モデル 170 追加ディスク L10(LANDesk Server Manager v2.52 用) をお使いになる前に」

注意

拡張カード接続時の注意点(重要)

サーバモニタモジュールを接続する場合は、
本サーバに添付されている拡張機能用ケーブル
(20ピン-20ピン)を使用してください。

サーバモニタモジュールに添付されている拡張機能用ケーブルは絶対に使用しないでください。このケーブルを使用した場合、ケーブルが焼損する可能性があります。

安全上のご注意

本装置およびそのオプション装置を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようにになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。

△警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。

△注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

感電



△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。

分解



○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が示されています。

プラグ



●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が示されています。

万一、異常が発生したとき



- 万一、装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が消えるのを確認して、担当営業員または担当保守員に修理をご依頼ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 異物（水・金属片・液体など）が装置の内部に入った場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、担当営業員または担当保守員にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

本体の取り扱いについて



- 装置を勝手に改造しないでください。火災・感電の原因となります。
- 装置本体のカバーや差し込み口についているカバーは、電池交換やオプション装置の取り付けなど、必要な場合を除いて取り外さないでください。
内部の点検、修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。



- ディスプレイに何も表示できないなど、故障状態で使用しないでください。故障の修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の恐れがあります。
- 開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 装置の上または近くに「花びん・植木鉢・コップ」などの水が入った容器、金属物を置かないでください。故障・火災・感電の原因となります。



湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に置かないでください。故障・火災・感電の原因となります。



- 本体に水をかけないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 風呂場、シャワー室などの水場で使用しないでください。故障・火災・感電の原因となります。



近くで雷が起きたときは、電源ケーブルやモジュラケーブルをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては装置を破壊し、火災の原因となります。



- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。
- 電源ケーブルや電源プラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。



電源プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。そのまま使用すると、火災の原因となります。



アース接続が必要な装置は、電源を入れる前に、必ずアース接続をしてください。アース接続ができない場合は、担当営業員または担当保

守員にご相談ください。万一漏電した場合に、火災・感電の原因となります。

警告



取り外したカバー、キャップ、ネジなどは、小さなお子様が誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠ 注意



- 装置の開口部（通風孔など）をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 装置の上に重いものを置かないでください。また、衝撃を与えないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となることがあります。
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- AC アダプタを使用する装置の場合は、マニュアルに記載されていない AC アダプタは使用しないでください。また、AC アダプタの改造・分解はしないでください。火災・けがの原因となることがあります。
- サービスコンセントがある装置の場合は、マニュアルに記載されていない装置をサービスコンセントに接続しないでください。火災・けがの原因となることがあります。
- フロッピーディスク・IC カードなどの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、火災・感電の原因となることがあります。

指示



電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。火災・故障の原因となることがあります。

プラグ



- 装置を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源ケーブルなどもはずしてください。作業は足元に十分注意して行ってください。電源ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となったり、装置が落ちたり倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 長時間装置を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

指示



- 健康のため、1時間ごとに**10~15分**の休憩をとり、目および手を休めてください。
- ディスプレイなど、重量のある装置を動かす場合は、必ず**2人以上**で行ってください。けがの原因となることがあります。
- ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。耳を刺激するような大きな音量を長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

オプションの取り扱いについて



オプション装置の取り付けや取り外しを行う場合は、装置本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。

禁止



- 弊社推奨品以外の装置は接続しないでください。故障・火災・感電の原因となります。

- 本体に取り付けたモデムカードに、二股のモジュラープラグを接続している場合、空いている差し込み口に指などを入れないでください。感電の原因となることがあります。

電池の取り扱いについて



使用している電池を取り外した場合は、小さなお子様が電池を誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



- マニュアルに記載されていない電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となることがあります。
- 電池はショートしたり、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となることがあります。
- 乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となることがあります。



電池を取り付ける場合、極性のプラス(+)とマイナス(-)の向きに注意してください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となることがあります。

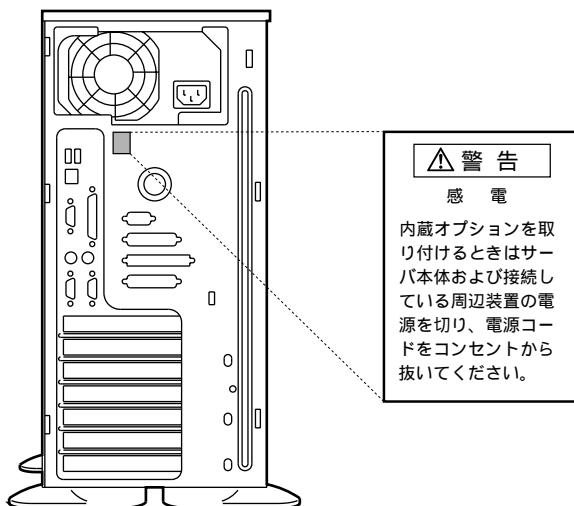
本装置を廃棄する時

本装置を廃棄する場合には、担当保守員にご連絡ください。

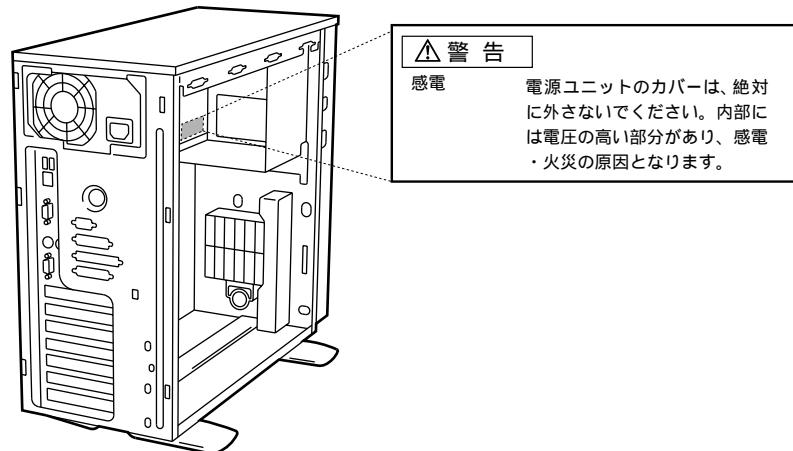
警告ラベル

本製品には、下図のように警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルは、絶対にはがさないでください。
また、汚れてメッセージなどが見にくくなった場合は、担当保守員までご連絡ください。

装置背面



装置内部



本書の位置づけ

本書は、GRANPOWER5000 モデル 170 の基本的な取り扱い方法を解説しています。本書で解説していない周辺装置の取り扱い方法については、各周辺装置に添付されている取扱説明書をご覧ください。

表記上の規則

本書では、以下の表記・記号を使用しています。

表記・記号	意味
パソコン	パソコン
サーバ本体または 本サーバ	GRANPOWER5000モデル170のことです。
[Enter]	[]で囲んだ英文は、キー ボード上のキーを示します。1つのキー上に複数の文字が刻印してある場合、説明に必要な文字だけを表記します。
[Ctrl] + [Alt]	複数のキーを同時に押すことを示します。 例 [Ctrl] + [Alt] + [Esc] [Ctrl]キーと[Alt]キーと[Esc]キーを同時に押します。
POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。
HELP	操作を間違えてしまったときの元の状態への戻しかたが書いてあります。
COLLAGE	用語の意味や、豆知識が書いてあります。
REF	本書内の参照ページを示します。

目 次

第 1 章	はじめに	1
1.1	特 長	2
1.2	システム構成	3
1.3	名称と働き	4
1.3.1	サーバ本体前面	4
1.3.2	サーバ本体背面	5
1.3.3	サーバ本体内部	6
1.3.4	キーボード	7
1.3.5	マウス	8
1.3.6	フロッピィディスク	8
第 2 章	設置と接続	11
2.1	設置場所に関する注意	12
2.2	接続全体図	14
2.3	CRTディスプレイの接続	15
2.3.1	接続	15
2.4	キーボード・マウスの接続	17
2.4.1	キーボードの接続	17
2.4.2	マウスの接続	17
2.5	プリンタの接続	18
2.5.1	接続	18
2.6	電源ケーブルの接続	20
2.6.1	接続	20

第 3 章 基本的な操作	23
3.1 電源を入れる	24
3.2 電源を切る	26
3.3 リセットする	28
3.4 フロッピィディスクのセット／取り出し	29
3.4.1 フロッピィディスクのセット	29
3.4.2 フロッピィディスクの取り出し	29
3.5 CD-ROM のセット／取り出し	31
3.6 ハードディスクユニットの取り扱い	34
3.7 文字を入力する	35
3.7.1 入力できる文字種	35
3.7.2 入力状態の表示	35
3.7.3 入力する文字種を切り換えるには	35
3.7.4 半角文字と全角文字を切り換えるには	36
3.7.5 ローマ字入力とかな入力を切り換えるには	36
3.7.6 かな入力早見表	36
第 4 章 セットアップ	39
4.1 セットアップの概要	40
4.1.1 セットアップについて	40
4.1.2 ハードウェアの設定	40
4.1.3 BIOS セットアップ・ユーティリティ	40
4.1.4 SCSISelect ユーティリティ	40
4.1.5 セットアップ・ディスク	40
4.1.6 ISA・コンフィグレーション・ユーティリティ(ICU)	40
4.2 ハードウェアの設定	41
4.3 BIOS セットアップ・ユーティリティ	43
4.3.1 BIOS セットアップ・ユーティリティについて	43
4.3.2 BIOS セットアップ・ユーティリティの始めかた	43
4.3.3 BIOS セットアップ・ユーティリティでのキー操作	43
4.3.4 メニュー一覧	44
4.3.5 Basic system Configuration メニュー	45
4.3.6 Advanced System Configuration メニュー	47
4.3.7 PnP/PCI System Configuration メニュー	49
4.3.8 Power Saving Configuration メニュー	50
4.3.9 System Security メニュー	51
4.3.10 Remote Diagnostic Configuration メニュー	55
4.3.11 Memory ECC Status メニュー	55
4.3.12 Load Setup Default Settings メニュー	56
4.3.13 BIOS セットアップ・ユーティリティ終了	56

4.4	SCSISelect ユーティリティ	57
4.4.1	SCSISelect ユーティリティ	57
4.4.2	SCSISelect ユーティリティの起動と終了	57
4.4.3	SCSISelect ユーティリティオプション	58
4.4.4	Configure/View Host Adapter Settings	59
4.4.5	SCSI Disk Utilities	64
4.5	セットアップディスク	65
4.5.1	構成	65
4.5.2	セットアップディスクのバックアップの作成	65
4.6	ISA・コンフィグレーション・ユーティリティ(ICU)	67
4.6.1	ICU 実行時の準備	67
4.6.2	ICU の起動	68
4.6.3	ICU の操作	68
4.6.4	カードの設定	69
4.6.5	システムコンフィグレーションの保存	73
4.6.6	ICU の終了	73
4.7	コンフィグレーション・シート	74
4.7.1	ハードウェア構成	74
4.7.2	BIOS セットアップ項目	76
4.7.3	SCSI Select ユーティリティ	82
4.8	LANDesk Server Manager について	87
第 5 章	内蔵オプションの取り付け	89
5.1	内蔵オプションの種類	90
5.2	フロントパネル・サイドカバーの取り外し	92
5.2.1	フロントパネルの取り外し	92
5.2.2	サイドカバーの取り外し	94
5.3	拡張 RAM モジュールの取り付け / 取り外し	95
5.4	内蔵 SCSI オプションの取り付け	97
5.4.1	全体図	97
5.4.2	ストレージベイへの取り付け	98
5.4.3	内蔵ハードディスクユニットの取り付け	99
5.4.4	内蔵テープバックアップユニットの取り付け / 取り外し	108
5.4.5	内蔵 DAT ユニットの取り付け / 取り外し	110
5.4.6	内蔵光磁気ディスクユニットの取り付け / 取り外し	116
5.5	拡張カードの取り付け	119
5.5.1	全体図	120
5.5.2	取り付け	121
5.5.3	各種拡張カードの搭載条件	123
5.5.4	システム資源管理表	147
5.6	故障ハードディスクの交換	150

第 6 章 故障かな？と思う前に	151
6.1 トラブルシューティング	152
6.1.1 保守員に連絡するときは	155
6.2 エラーメッセージ	156
付録 A 付録	159
A.1 お手入れのしかた	160
A.1.1 サーバ本体のお手入れ	160
A.1.2 キーボードのお手入れ	160
A.1.3 マウスのお手入れ	160
A.1.4 フロッピィディスクドライブのクリーニング	161
A.2 仕様	163
A.2.1 本体仕様	163
A.2.2 サポートソフト	164
A.2.3 キーボード仕様	164
A.2.4 マウス仕様	164
A.3 設置環境	165
A.4 24 時間運用上の留意点	166
A.5 NetWare のインストール	167
A.5.1 インストールの前に	167
A.5.2 インストールの流れ	167
A.5.3 インストールに必要なソフトウェア	167
A.5.4 IntranetWare のインストール	167
A.5.5 NetWare 3.12J/V のインストール	171
A.5.6 NetWare 4.11J SFT III 使用時の注意事項	173
A.5.7 SCSI ディスクドライブ関連エラーメッセージ	173
A.6 Windows NT Server のインストール	176
A.6.1 インストールの前に	176
A.6.2 インストールに必要なソフトウェア	176
A.6.3 Windows NT Server 3.51 のインストール	176
A.6.4 Windows NT Server 3.51 インストールモデル環境復元方法	178
A.6.5 Windows NT Server 4.0 のインストール	180
A.7 SCSI アレイコントローラカード使用時のネットワーク OS のインストール方法	182
A.7.1 NetWare のインストール	183
A.7.2 Windows NT Server のインストール	188
A.8 RAM モジュールの診断	191
用語集	193

索 引

201

1

第1章 はじめに

この章は、本サーバの特長、代表的な周辺装置、装置の各部の名称と働きなど、基本的な知識を解説しています。

CONTENTS

1.1 特長	2
1.2 システム構成	3
1.3 名称と働き	4

1.1 特 長

本サーバには、以下のような特長があります。

高速な処理

データを高速に処理できる Pentium®II プロセッサを 1 個搭載しています。システムは 64 ビット幅のメモリバスをもっていますので、64 ビット幅の外部データバスをもつ Pentium®II プロセッサの性能を最大限に引き出すことができます。

本サーバには最大データ転送速度 133MB / 秒を誇る PCI バスを搭載しています。また、内蔵 SCSI アダプタは UltraSCSI にすることが可能です。これによりネットワークサーバとしてのパフォーマンスを飛躍的に向上させることができます。

余裕の拡張性

コンパクトなデザインにもかかわらず、大容量かつ拡張性に富んだシステムを構成することができます。

- メモリは、最大 512MB まで拡張することができます。
- 本サーバ側面および前面にハードディスクドライブ用に 3.5 インチサイズのベイを用意しており、標準で EIDE 規格の内蔵ハードディスクを 1 台搭載しています。また、増設内蔵ハードディスクユニットは SCSI 規格のハードディスクを 3 台まで搭載可能で、合計最大 4 台の内蔵ハードディスクユニットを搭載することができます。
- ディスクサブシステムにハードディスクキャビネットを増設することで、システムの大規模化にも対応が可能です。
- 内蔵 CD-ROM ドライブユニット / 内蔵テープバックアップユニット / 内蔵 DAT ユニット / 内蔵光磁気ディスクユニットをサポートしています（本サーバでは内蔵 CD-ROM ドライブユニットを 1 台標準搭載しています）。
- 拡張スロットは、PCI バススロットを 3 スロット、ISA バススロットを 2 スロット用意しています。

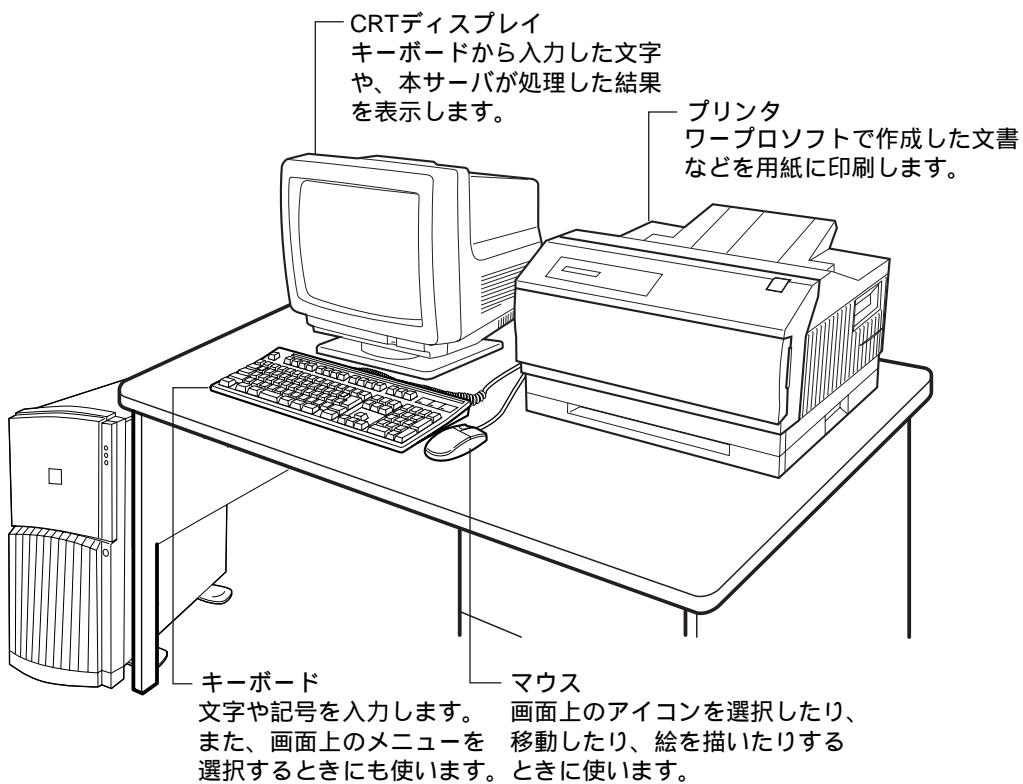
高信頼性の実現

- 特定の人だけが本サーバを使用できるようにパスワード（暗証番号）を設定することができます。
- ネットワーク OS と連携して、ディスクの二重化を行う「ミラーリング」機能と「デュプレクシング」機能をサポートしていますので、万一のデータ破損に備えることができます。
- SCSI アレイコントローラカードを使用し、ディスクアレイシステム（RAID0/1/5）を構成することができます。
- サーバモニタモジュールを使用し、万一手動で本体内の CPU が故障したりシステム電源が切断されたとしても、サーバモニタモジュールは独立して動作することができます。サーバモニタモジュールにはサーバ監視機能、自動通知機能、ロギング機能などがあり、システム管理者は常にサーバの状態を監視することができます。

1.2 システム構成

本サーバのシステム構成の一例をあげます。

ハードウェア



ソフトウェア

OS アプリケーションソフトと本サーバの間に立ち、アプリケーションソフトの要求
にしたがって、本サーバを動かします。基本ソフトとも呼ばれます。

その他

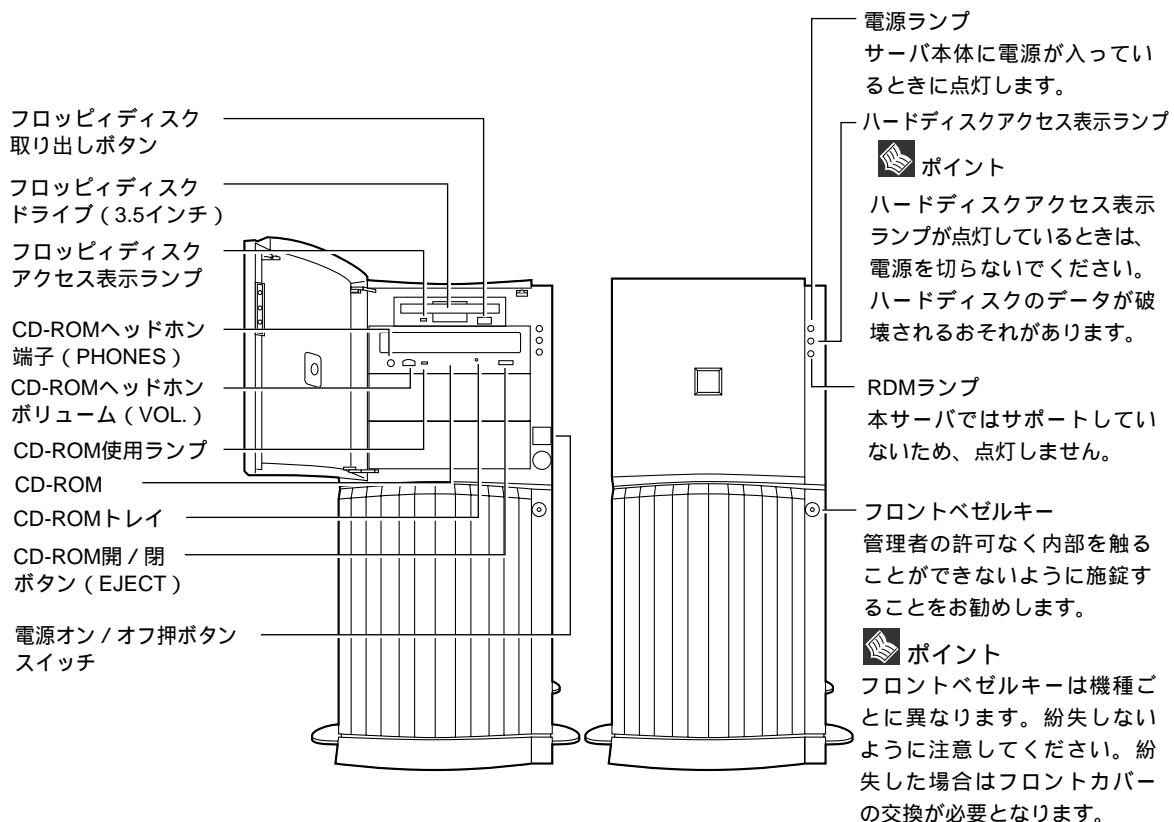
フロッピィディスク

ソフトウェアやデータを記録します。最も手軽で安価な記憶媒体です。

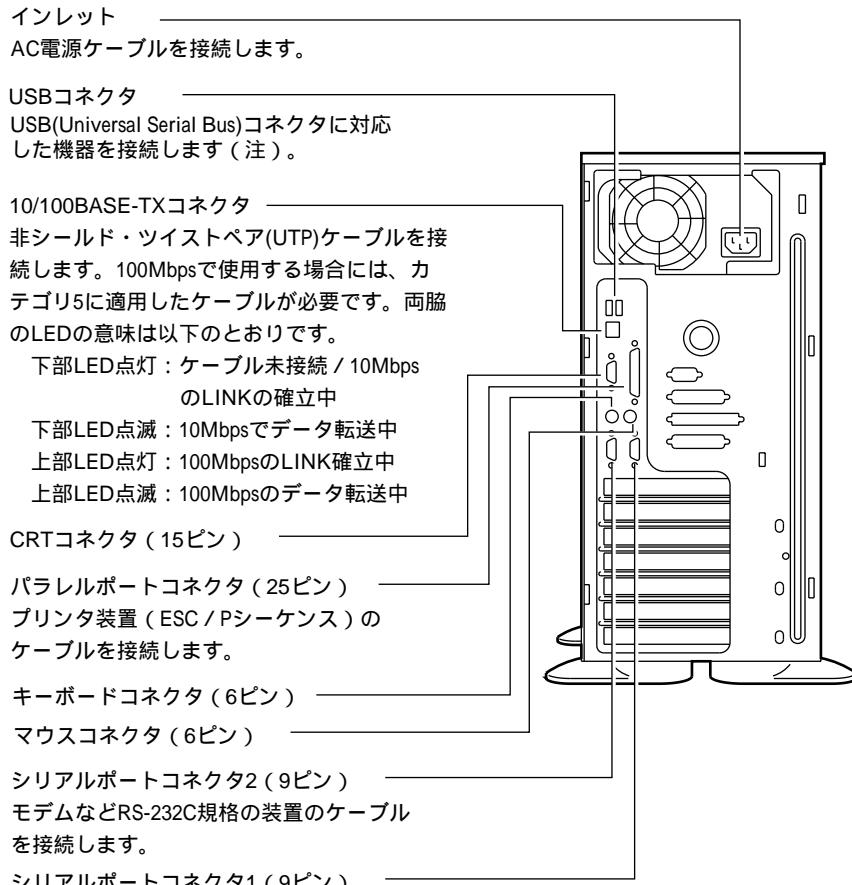
1.3 名称と働き

ここでは、サーバ本体、キーボード、マウス、フロッピィディスクの各部の名称と働きを解説します。

1.3.1 サーバ本体前面

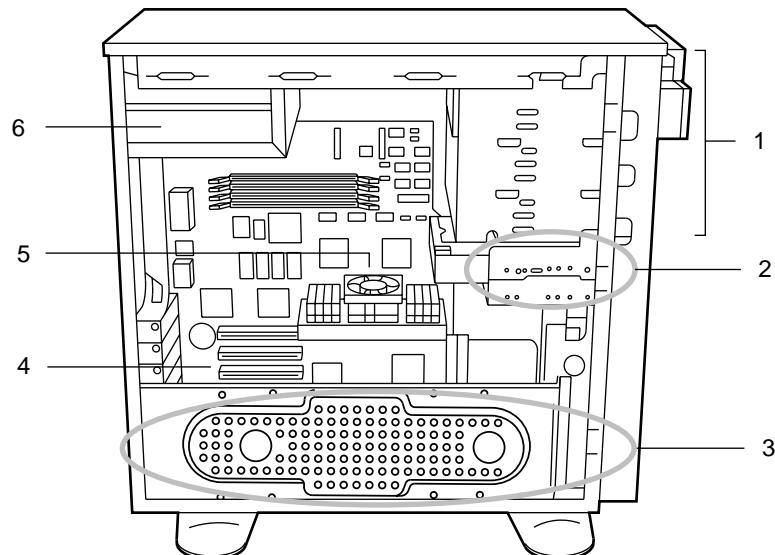


1.3.2 サーバ本体背面



注) 本サーバではUSBインターフェースはサポートしておりませんので、ご使用になれません。

1.3.3 サーバ本体内部



1 5インチストレージベイ

IDE 規格の内蔵 CD-ROM ドライブユニット、SCSI 規格の内蔵テープバックアップユニット、内蔵 DAT ユニット、内蔵光磁気ディスクユニットなどを取り付けます。最上段には内蔵 CD-ROM ドライブユニットを標準で搭載しています。

2 3.5インチストレージベイ（フロントディスクベイ）

3 3.5インチストレージベイ（サイドディスクベイ）

内蔵ハードディスクを取り付けます。サイドディスクベイに 2 台、フロントディスクベイに 2 台の内蔵ハードディスクユニットを搭載することができます。本サーバでは、標準で IDE 規格の内蔵ハードディスクユニットを 1 台サイドディスクベイに搭載しています。また、SCSI 規格の内蔵ハードディスクユニットを 3 台まで増設できます。

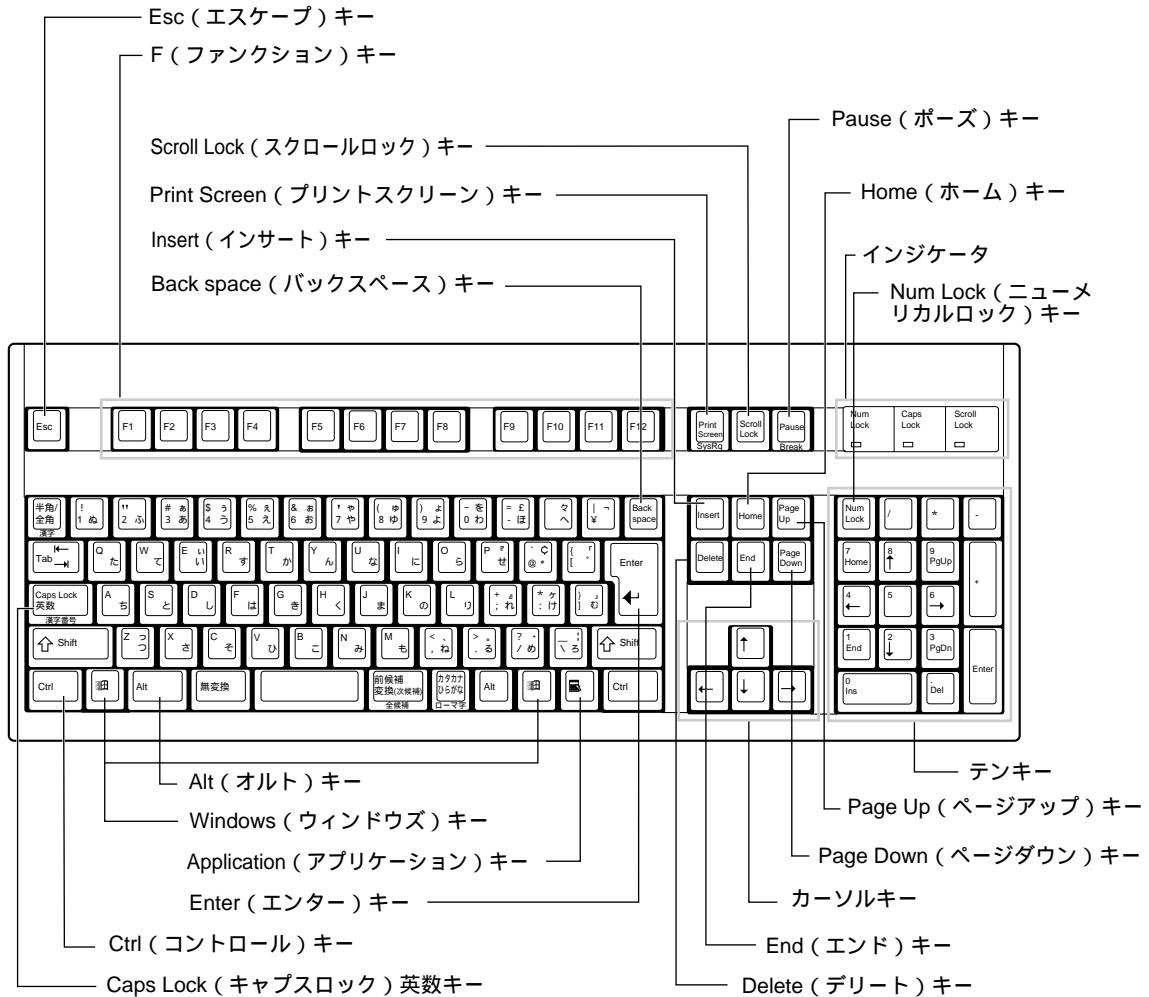
4 PCI スロット、ISA スロット

5 CPU

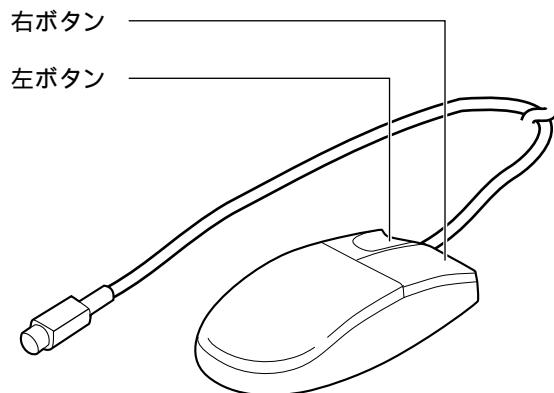
6 電源ユニット

1.3.4 キーボード

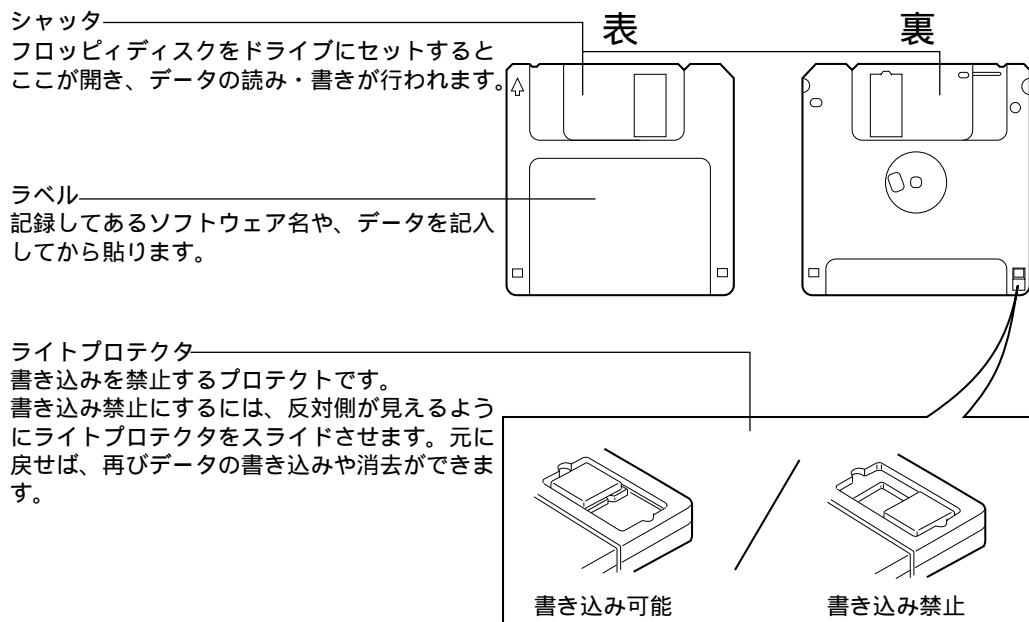
本サーバには、OADG仕様に準拠したキーボードが添付されています。各種機能キーはアプリケーションによって機能が異なります。



1.3.5 マウス



1.3.6 フロッピィディスク



△注意



フロッピィディスクを取り扱うときは、以下の点にご注意ください。

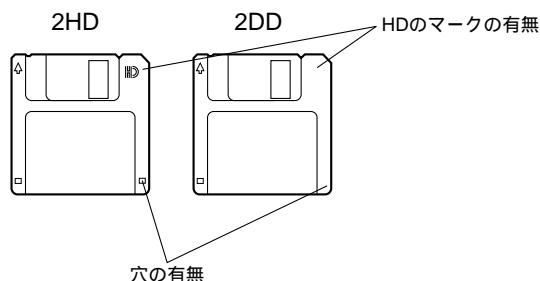
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクに触らないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温／低温の場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください。

 コラム

2種類のフロッピィディスク…

フロッピィディスクは、記録できるデータの量（記録密度）によって分類した場合、代表的なものとして次の2つがあります。

1つは2HDと呼ばれるフロッピィディスクで、1.44MBの記録密度があります。もう1つは2DDと呼ばれるフロッピィディスクで、2HDの半分の720KBの記録密度があります。2種類の外見上の違いは、図のとおりです。



2モードドライブについて…

本サーバのフロッピィディスクドライブは、1.44MB、720KBの各記録密度に対応できる2モードドライブです。

2

第2章 設置と接続

この章は、本サーバと周辺装置との接続方法を解説しています。

CONTENTS

2.1	設置場所に関する注意	12
2.2	接続全体図	14
2.3	CRT ディスプレイの接続	15
2.4	キーボード・マウスの接続	17
2.5	プリンタの接続	18
2.6	電源ケーブルの接続	20

2.1 設置場所に関する注意

本サーバを設置するときは、以下の場所は避けてください。



湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に設置しないでください。

故障・火災・感電の原因となります。



- 本体に水をかけないでください。
故障・火災・感電の原因となります。
- 風呂場、シャワー室などの水場で使用しないでください。
故障・火災・感電の原因となります。



- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所には設置しないでください。また、10℃未満の低温になる場所には、設置しないでください。
故障の原因となります。

- 電源ケーブルに足がひっかかる場所には設置しないでください。故障の原因となります。

- テレビやスピーカの近くなど、強い磁界が発生する場所には設置しないでください。故障の原因となります。

- 装置の開口部（通風孔など）をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。

- 本体装置は、水平で安定した場所、および大きな振動の発生しない場所に設置してください。

振動の激しい場所や傾いた場所などの不安定な場所は、落ちたり倒れたりしてけがの原因になりますので、設置しないでください。

また、通路の近くには、危険防止のため設置しないでください。通路の近くに設置すると、人の歩行などで発生する振動によって本体が故障したり誤動作する場合があります。

- 本体の上に重いものを置かないでください。また、装置の上に物を落としたり、衝撃を与えないでください。

バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となります。また、本体が故障したり誤動作する場合があります。

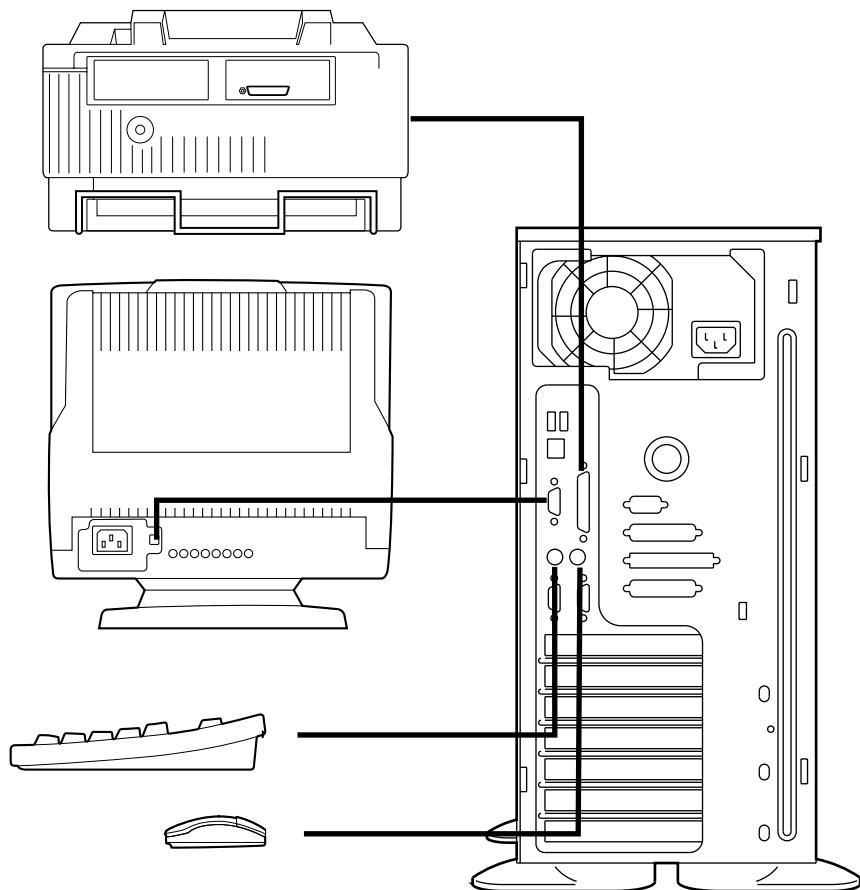
2.1 設置場所に関する注意

- 本サーバを移動する場合は、必ず電源を切断し、ケーブル類/マウス/キーボード/AC ケーブルを外してください。オプションの搭載によって、最大 **20Kg** 以上の重量となりますので充分注意して運搬してください。

2

2.2 接続全体図

以下は、背面から見た接続全体図です。各周辺装置の接続方法は、各ページをご覧ください。



2.3 CRT ディスプレイの接続

CRT ディスプレイの接続方法は、以下のとおりです。

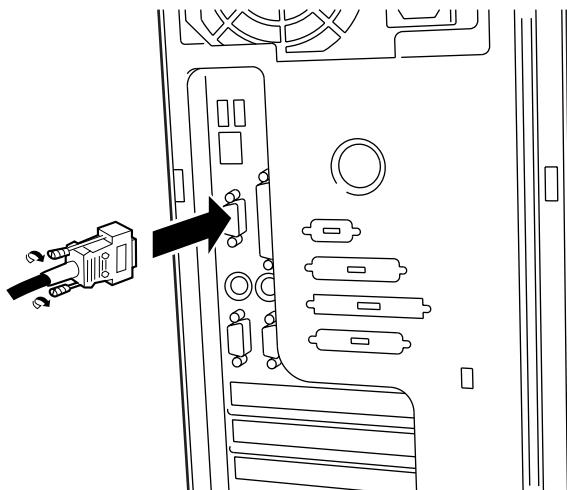


接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。
感電の原因となります。

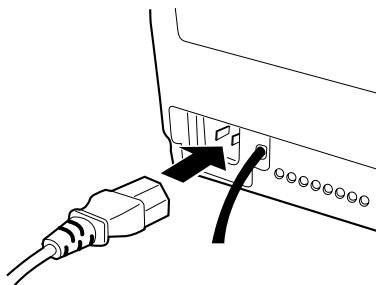
2

2.3.1 接続

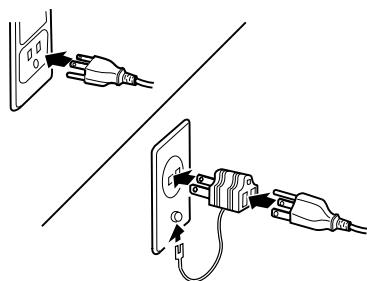
- 1) CRT ケーブルをサーバ本体に接続します。
CRT ケーブルのコネクタを、サーバ本体の CRT コネクタに接続します。CRT ケーブルのコネクタのネジをしめます。



- 2) 電源ケーブルを CRT ディスプレイに接続します。
電源ケーブル (CRT ディスプレイ用) の片方のプラグを、CRT ディスプレイ背面のインレットに接続します。
電源ケーブルの片方が CRT ディスプレイ本体に一体となっている製品をお使いのときは本手順を省きます。



- 3) 電源ケーブルをコンセントに接続します。
もう片方のプラグをコンセントに接続します。
コンセントが2ピンの場合は、添付のアダプタプラグを取り付けてから、コンセントに接続します。アダプタプラグについているアース線を、コンセントのFGネジに接続します。



2.4 キーボード・マウスの接続

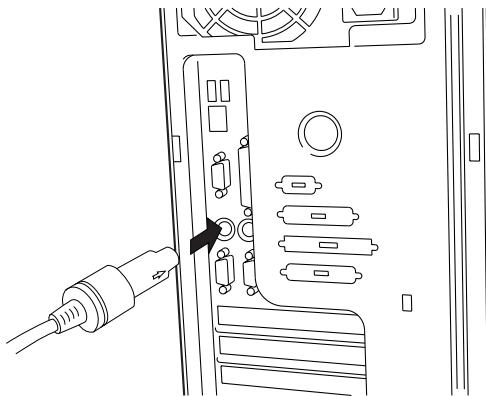


接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。
感電の原因となります。

2

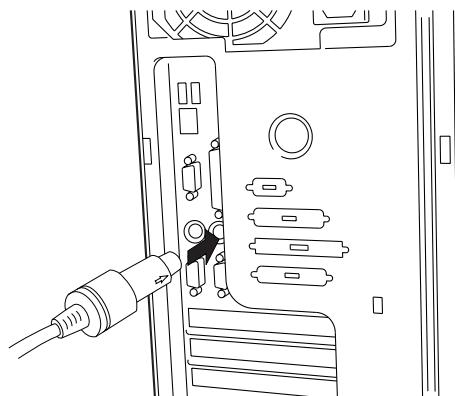
2.4.1 キーボードの接続

- 1) キーボードケーブルのコネクタを、サーバ本体背面のキーボードコネクタに接続します。
このとき、コネクタに刻印されている矢印が右側に向くようにします。



2.4.2 マウスの接続

- 1) マウスケーブルのコネクタを、サーバ本体背面のマウスコネクタに接続します。
このとき、コネクタに刻印されている矢印が右側に向くようにします。



2.5 プリンタの接続

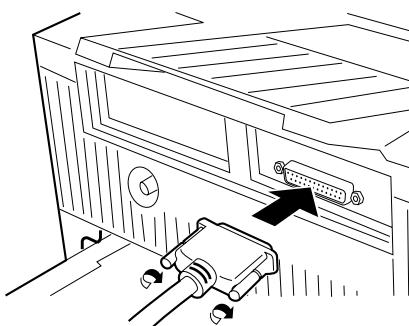


接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。
感電の原因となります。

2.5.1 接続

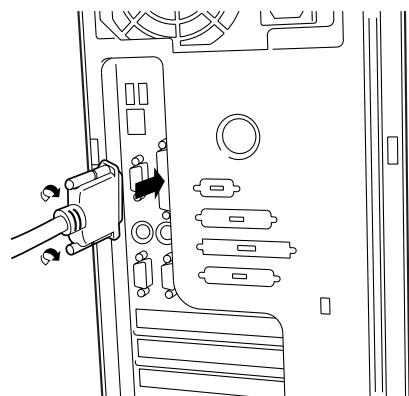
- 1) プリンタケーブルをプリンタに接続します。

プリンタケーブルの片方のコネクタを、プリンタに接続します。コネクタのネジをしめます。



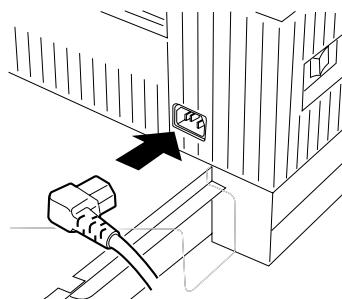
- 2) プリンタケーブルをサーバ本体に接続します。

もう片方のコネクタを、サーバ本体のパラレルコネクタに接続します。コネクタのネジをしめます。



3) 電源ケーブルをプリンタに接続します。

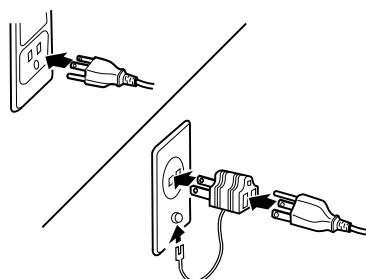
プリンタの電源ケーブルのプラグを、プリンタのインレットに接続します。



4) 電源ケーブルをコンセントに接続します。

もう片方のプラグを、コンセントに接続します。

コンセントが 2 ピンの場合は、添付のアダプタプラグを取り付けてから、コンセントに接続します。アダプタプラグに付いているアース線を、コンセントの FG ネジに接続します。



ポイント

パラレルコネクタには、ESC/P シーケンスのプリンタのみ接続できます。FM シーケンスのプリンタを接続する場合、またはプリンタを FM シーケンスで運用する場合には、以下の拡張カードが別途必要になります。

- プリンタ増設カード (FMV-131)

2.6 電源ケーブルの接続

周辺装置の接続を終えたら、本サーバの電源ケーブルを接続します。



- 濡れた手でプラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると、電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因になります。
- 電源ケーブルやプラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは、使用しないでください。
そのまま使用すると、火災の原因になります。

指示

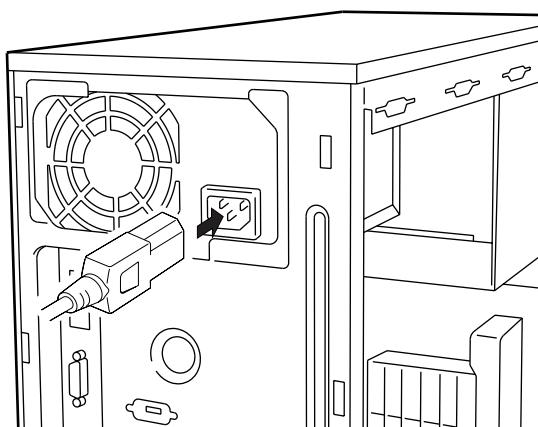


- プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。
そのまま使用すると、火災の原因になります。
- 電源ケーブルは、家庭用電源（AC100V）に接続してください。
また、タコ足配線をしないでください。
故障・火災の原因となります。

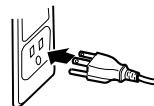
2.6.1 接続

1) 電源ケーブルをサーバ本体に接続します。

電源ケーブルのプラグを、本サーバのインレットに接続します。



- 2) 電源ケーブルをコンセントに接続します。
もう片方のプラグを、コンセントに接続します。



2

⚠ 警告



近くで雷が起きたときは、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
そのまま使用すると、雷によっては本サーバを破壊し、火災の原因となります。

⚠ 注意



指示

- プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、火災・感電の原因となります。
- プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。火災・故障の原因となることがあります。
- 長時間使用しないときは、安全のため必ずプラグをコンセントから抜いてください。火災・故障の原因となることがあります。

3

第3章 基本的な操作

3

この章は、電源の入れ方や切り方、フロッピィディスクのセット方法や取り出し方法など、本サーバを使用する上での基本的な操作を解説しています。

CONTENTS

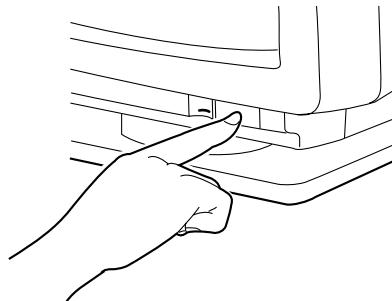
3.1	電源を入れる	24
3.2	電源を切る	26
3.3	リセットする	28
3.4	フロッピィディスクのセット / 取り出し	29
3.5	CD-ROM のセット / 取り出し	31
3.6	ハードディスクユニットの取り扱い	34
3.7	文字を入力する	35

3.1 電源を入れる

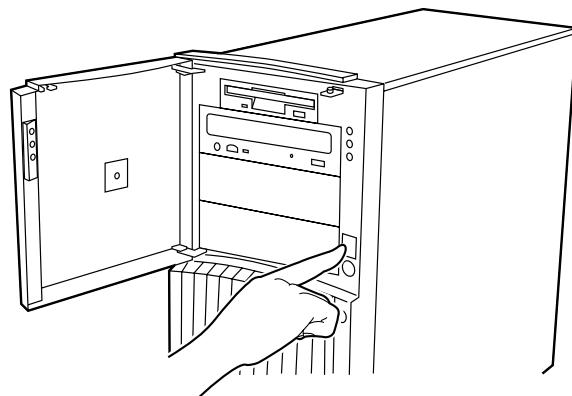


電源を入れたら、持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。サーバ内部のハードディスクを損傷し、データを消失する原因となります。

- 1) CRTディスプレイの電源スイッチを押します。
CRTディスプレイの電源ランプが点灯します。



- 2) サーバ本体前面の電源スイッチを押します。
サーバ本体の電源ランプが点灯します。
電源が入ると、本サーバはサーバ内部の装置をチェックする「POST (Power On Self Test:パワーオンセルフテスト)」を行います。POST の結果、異常があればエラーメッセージが表示されます。(「第6章 故障かな？と思う前に」の「6.2 エラーメッセージ」を参照)



3.1 電源を入れる

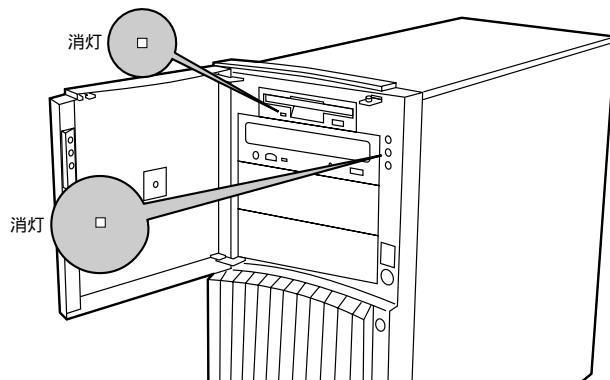
- 3) CRTディスプレイを調整します。
CRTディスプレイのライトネスボリューム（またはボタン）とコントラストボリューム（またはボタン）を使用して、見やすい画面になるよう調整します。

3

3.2 電源を切る

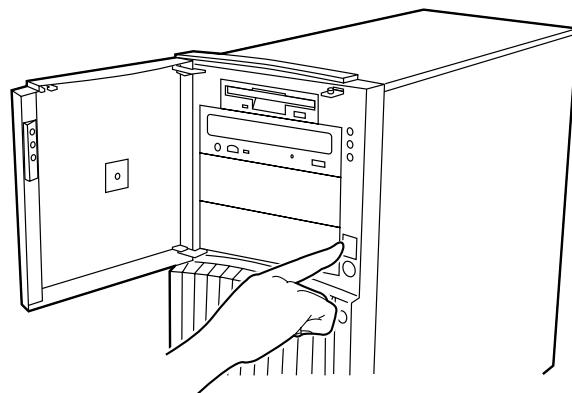
1) 作業を終了します。

作業を終了し、フロッピィディスクとハードディスクのアクセス表示ランプが消えていることを確認します。



2) サーバ本体前面の電源スイッチを押します。

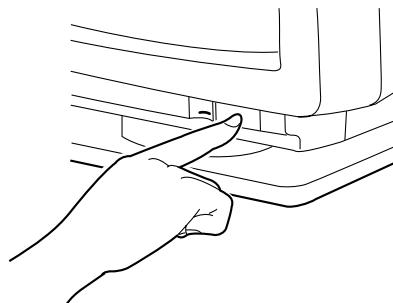
サーバ本体の電源ランプが消えます。



3) CRTディスプレイの電源スイッチを押します。

CRTディスプレイの電源ランプが消えます。

3.2 電源を切る



3

3.3 リセットする

リセットとは、メモリ内のデータを消去して、OSを再び読み込むことです。リセットは、以下の場合に行います。

- OSの設定を変更した場合
- 使用中のアプリケーションソフトが、何らかの理由で動かなくなった場合

ポイント

リセットすると、作業中のデータはすべて失われます。リセットする場合は、作業した結果をあらかじめ保存してください。また、アプリケーションソフトが動かなくなった場合は、アプリケーションソフトに添付の取扱説明書をご覧になり、元の状態に戻す措置を行ってください。それでも動かない場合はリセットしてください。

リセットするには、以下の方法があります。

- [Ctrl] + [Alt] + [Delete] キーを押して、離します（ソフトリセット）

ポイント

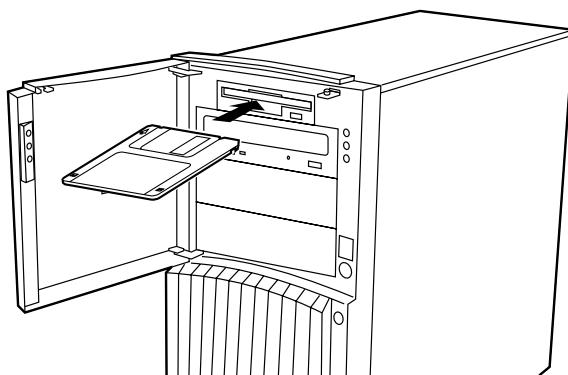
何らかの異常によって本サーバが停止し、上記の方法でリセットできない場合は、一度電源を切ってから再度電源を入れてください。

3.4 フロッピィディスクのセット / 取り出し

フロッピィディスクのセット方法・取り出し方法は、以下のとあります。

3.4.1 フロッピィディスクのセット

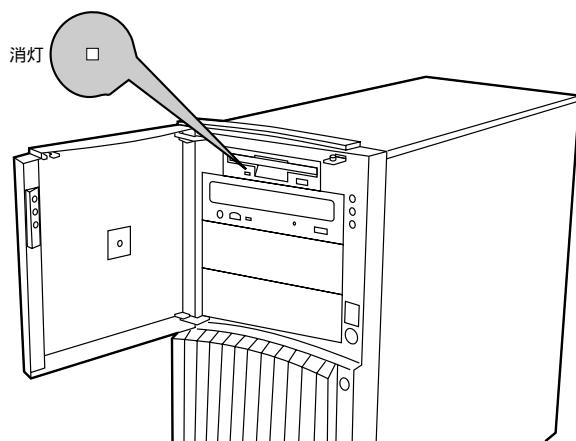
- 1) ラベルを上側に向け、シャッタのある側から、フロッピィディスクドライブに差し込みます。
カシャッと音がし、フロッピィディスク取り出しボタンが飛びだします。



3

3.4.2 フロッピィディスクの取り出し

- 1) フロッピィディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認して、取り出しボタンを押します。
フロッピィディスクが出てきます。

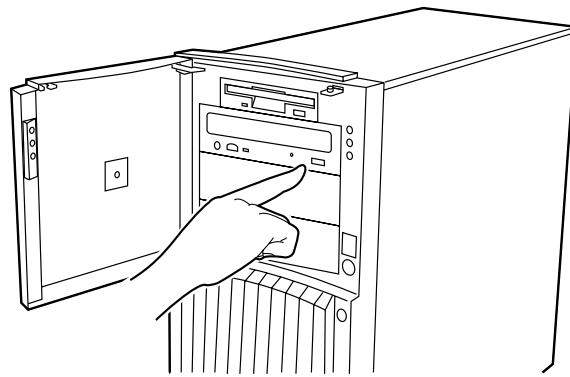


 ポイント

フロッピィディスクアクセス表示ランプの点灯中にフロッピィディスクを取り出すと、フロッピィディスク内部のデータが破壊されるおそれがあります。

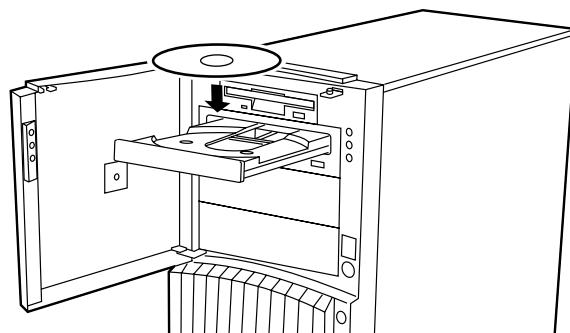
3.5 CD-ROM のセット/取り出し

- 1) サーバ本体の電源が入っていることを確認して、CD-ROM 取り出しボタン (EJECT) を押します。
トレイが出てきます。

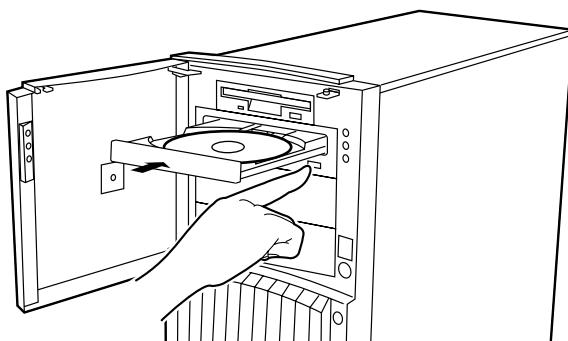


3

- 2) CD-ROM のラベル面を上にして、トレイ中央に置きます。



- 3) CD-ROM 取り出しボタン (EJECT) を押します。
トレイが格納されます。



取り出しありも、上記のように CD-ROM 取り出しボタン (EJECT) を押して行います。

 ポイント

本サーバの内蔵 CD-ROM ドライブユニットでは、下図のマークがついた CD-ROM をご利用になれます。



△注意



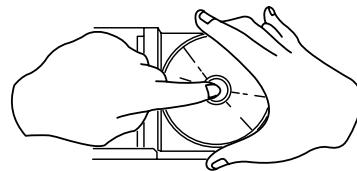
指示

故障などを防ぐため、内蔵 CD-ROM ドライブユニットや CD-ROM を取り扱うときは、以下の点にご注意ください。

- 内蔵 CD-ROM ドライブユニット
 - 湿気やほこりや浮遊物の少ないところで使用してください。また、内部に水などの液体やクリップなどの金属類が入ると、感電や故障の原因となります。
 - 衝撃や振動の加わる場所では使用しないでください。
 - トレイには規定の CD-ROM 以外のディスクおよびディスク以外の物をセットしないでください。
 - トレイは、力を入れて引き出したり、強く押しつけたりしないでください。
 - CD-ROM ドライブユニットは絶対に分解しないでください。

3.5 CD-ROM のセット / 取り出し

- トレイは使用前にきれいにしておいてください。清掃時は乾いたやわらかい布をご使用ください。
- 長期間ご使用にならないときは、万一の事故を防ぐために CD-ROM ドライブユニットから CD-ROM を取り出しておいてください。また、CD-ROM ドライブユニットにほこりやゴミが入りこまないように、トレイを閉じた状態（ロード状態）にしておいてください。
- CD-ROM
 - ケースから取り出すときは、下図のように、ケースのセンターホルダーを押さえながら持ち上げてください。



3

- できるだけ、CD-ROM の縁を持つようにして、表面に触れないように扱ってください。
- CD-ROM の表面に指紋、油、ゴミなどをつけないでください。汚れた場合には、乾いた柔らかい布で CD-ROM の内側から外側へ向けて拭いてください。ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
- CD-ROM の表面に傷をつけないように十分注意してください。
- 熱を加えないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- レーベル面（印刷側）にボールペンや鉛筆などで文字を書かないでください。
- 屋外などの寒い場所から急に暖かい場所に移すと、表面に水滴がついて、CD-ROM ドライブユニットがデータを読み込めないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで乾燥させないでください。
- ほこり、傷、変形などを避けるため、使用しないときはケースに入れて保管してください。
- 直射日光が長時間あたるところや暖房器具などの熱があたるところなど、高温になる場所での保管は避けてください。

3.6 ハードディスクユニットの取り扱い

ハードディスクユニットを取り扱うときは、以下の点にご注意ください。



- ハードディスクユニットを乱暴に取り扱うと、内部のデータが破壊されることがあります。万が一の事態に備えて、重要なデータは常にバックアップをとるようにしてください。また、別のハードディスクユニットにバックアップをとるときは、ファイル単位または区画単位でバックアップすることをお勧めします。
- 湿気やほこりや浮遊物の少ないところで使用してください。
 - 衝撃や振動の加わる場所での使用や保管は避けてください。
 - 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないようにしてください。
 - 極端な高温や低温の場所、また温度変化の激しい場所での使用、保管は避けてください。
 - ハードディスクユニットは絶対に分解しないでください。

3.7 文字を入力する

3.7.1 入力できる文字種

本サーバでは、以下の文字種を入力できます。

- ひらがな(あ、い、う、など)
- カタカナ(ア、イ、ウ、など)
- 英数字(A、B、C、%、&、1、2、など)

ポイント

漢字を入力するには、ひらがなで読みを入力してから漢字に変換します。ひらがなを漢字に変換する操作は、フロントエンドプロセッサによって異なります。詳しくは、使用するフロントエンドプロセッサに添付の取扱説明書をご覧ください。

3

3.7.2 入力状態の表示

現在、どの文字種を入力できる状態かを知るには、画面下の「入力状態の表示」を見ます。入力状態の表示は、入力できる文字種、入力できる文字の大きさ、入力方法を表しています。

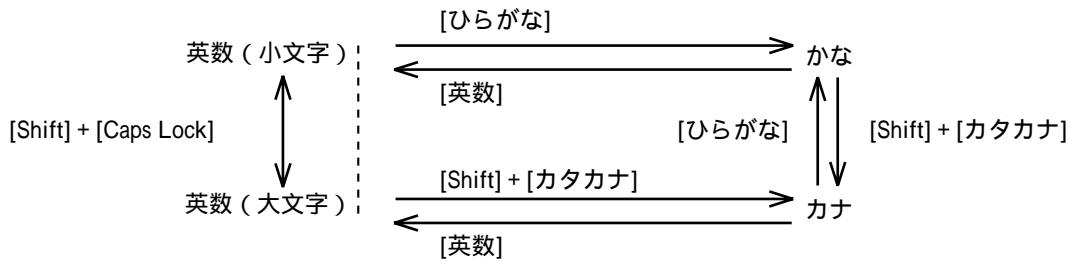


なお、入力状態の表示は、フロントエンドプロセッサごとに異なります。詳しくは、使用するフロントエンドプロセッサに添付の取扱説明書をご覧ください。

入力状態の表示	内容
かな	ひらがなを入力できる状態です。
カナ	カタカナを入力できる状態です。
英数	英数字を入力できる状態です。
半角 / 全角	半角英数字または全角英数字を入力できる状態です。
R / (表示なし)	Rと表示されていれば、ローマ字入力ができる状態です。何も表示されていなければ、かな入力ができる状態です。

3.7.3 入力する文字種を切り換えるには

入力する文字種の切り換えかたは、以下のとおりです。



POINT

[Caps Lock] キーを押さなくても、[Shift] キーと一緒に文字を入力すれば、小文字の状態では大文字の英字を、大文字の状態では小文字の英字を入力できます。

3.7.4 半角文字と全角文字を切り換えるには

[半角 / 全角] キーを押すと、半角文字と全角文字を切り換えることができます。

POINT

ひらがなやカタカナは、入力状態の表示が半角でも全角で入力されます。半角では入力できません。

3.7.5 ローマ字入力とかな入力を切り換えるには

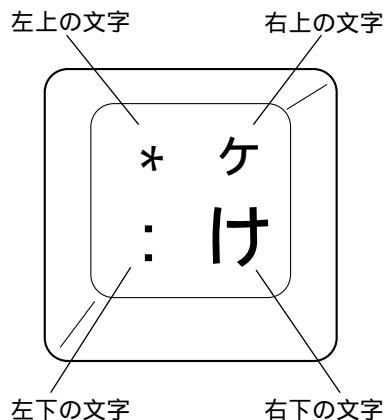
ローマ字入力にするには、[Alt] + [ローマ字] キーを押します。もう一度押すと、かな入力ができる状態になります。

3.7.6 かな入力早見表

1つのキー上には、複数の文字または記号が刻印してあります。これらの文字または記号を入力し分けるには、下の早見表を参考にしてください。

表中に「右上の文字」や「右下の文字」などとあるのは、キー上の文字の位置を示します。

文字の位置



3

早見表

入力する文字の種類		入力状態の表示	操作
ひらがな	右下の文字	かな、カナ	文字キーを押します
カタカナ	右上の文字	かな、カナ	[Shift] キーを押しながら、文字キーを押します
	濁音	かな、カナ	濁音にする文字に続けて、[°] キーを押します
	半濁音	かな、カナ	濁音にする文字に続けて、[°] キーを押します
数字		英数	数字キーを押します
英字	大文字	英数	[Shift] + [Caps Lock] キーを押し、Caps Lock インジケーターが点灯している状態で、文字キーを押します。または、[Shift] キーを押しながら、文字キーを押します
	小文字	英数	文字キーを押します
記号	左下の文字	英数	文字キーを押します
	左上の文字	英数	[Shift] キーを押しながら、文字キーを押します

4

第4章 セットアップ

この章は、本サーバを動かす上で必要となる環境設定の方法を解説しています。

4

CONTENTS

4.1	セットアップの概要	40
4.2	ハードウェアの設定	41
4.3	BIOS セットアップ・ユーティリティ	43
4.4	SCSISelect ユーティリティ	57
4.5	セットアップディスク	65
4.6	ISA・コンフィグレーション・ユーティリティ(ICU)	67
4.7	コンフィグレーション・シート	74
4.8	LANDesk Server Manager について	87

4.1 セットアップの概要

以下にセットアップの概要について説明します。

4.1.1 セットアップについて

本サーバを正常に機能させるためには、以下に示す作業を正しく行う必要があります。

4.1.2 ハードウェアの設定

サーバ本体や本体に装着する記憶装置、拡張カードのスイッチやジャンパピンなどの物理的な設定を実施し確認します。このセットアップに誤りがあると、サーバが動作しない場合や、正しく機能しない場合があります。本章では、サーバ本体内にあるジャンパ設定について説明します。サーバ本体に内蔵する記憶装置や拡張カードの設定については、「第5章 内蔵オプションの取り付け」およびオプションに添付の取扱説明書をご覧になり、正しく設定してください。

4.1.3 BIOS セットアップ・ユーティリティ

BIOS セットアップ・ユーティリティは、PCI カードの設定を行う場合、BIOS の設定を一時的に変更する場合、サーバ本体がブートできるようにコンフィグレーション・エラー（POST エラー）を訂正する場合、SMM（サーバモニタモジュール）カードを取り付ける場合などに使用します。本ユーティリティで設定したオプションパラメータは、サーバ本体内の CMOS RAM（以下、CMOS）および NVRAM に書き込まれます。

4.1.4 SCSISelect ユーティリティ

本サーバに装備される SCSI バス上のホストアダプタ（Adaptec® 社製 AIC-7880）と SCSI オプションに関する各種設定ができます。SCSISelect ユーティリティを使い、それぞれの SCSI バスに対して設定します。

4.1.5 セットアップ・ディスク

本サーバでは、セットアップ・ディスクとして 5 枚のフロッピディスクが添付されています。以降で説明する ISA・コンフィグレーション・ユーティリティや各 OS のインストールで使用します。

ここでは、そのフロッピディスクの構成とバックアップの作成方法について説明しています。

4.1.6 ISA・コンフィグレーション・ユーティリティ（ICU）

ISA・コンフィグレーション・ユーティリティ（ICU）では、ISA カードに関するコンフィグレーション情報を設定します。拡張カードなどの取り付け・取り外しを行った場合は、必ず ICU を実行しなければなりません。ICU での設定に誤りがあると、サーバが正しく機能しない場合があります。その場合は、ICU でシステムを再構成します。なお、再構成する前には必ずそのときのコンフィグレーション情報をすべて記録しておきます。

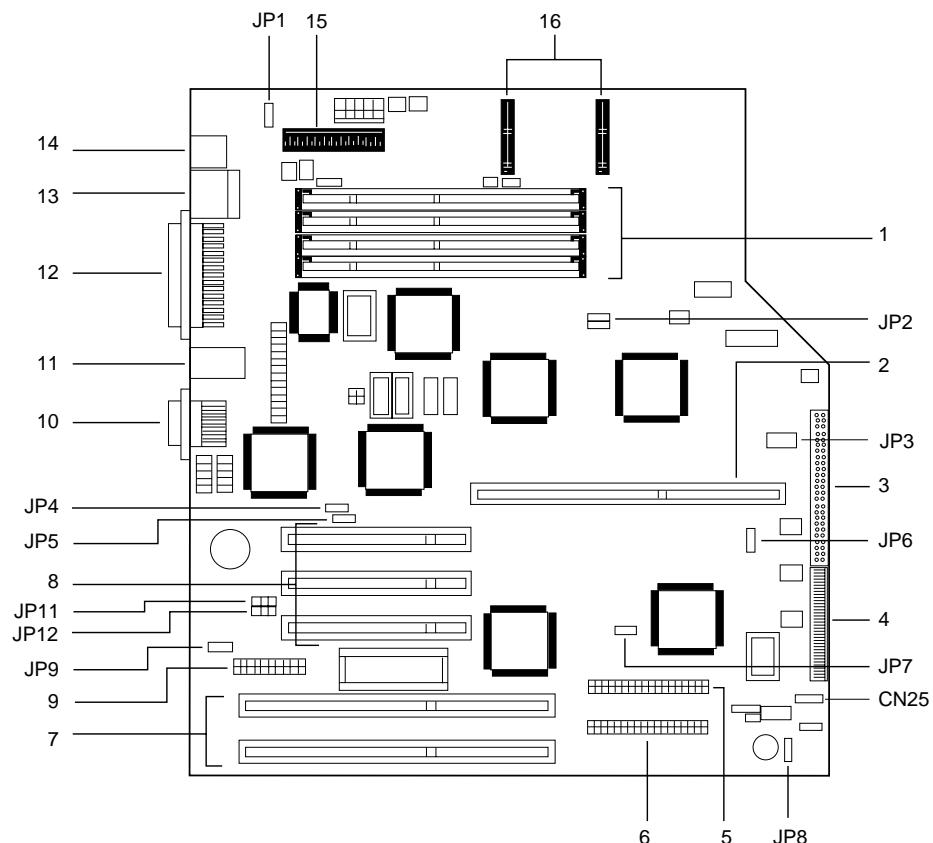
ICU は、サーバ本体添付のセットアップディスクを使用して実行します。

4.2 ハードウェアの設定

マザーボード各部の名称とコンフィグレーション・ジャンパブロックの設定は以下のとおりです。

マザーボード各部の名称

マザーボード各部の名称は以下のとおりです。



4

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1 メモリスロット | 11 マウスコネクタ / キーボードコネクタ |
| 2 CPUスロット | 12 CRTコネクタ / パラレルポートコネクタ |
| 3 内部SCSIコネクタ(50ピン) | 13 10/100BASE/TX用LANコネクタ |
| 4 内部SCSIコネクタ(68ピン) | 14 USBコネクタ |
| 5 プライマリIDEコネクタ | 15 電源コネクタ |
| 6 セカンダリIDEコネクタ | 16 RDMコネクタ (本サーバでは使用しません。) |
| 7 ISAスロット | |
| 8 PCIスロット | |
| 9 サーバモニタモジュール拡張機能用コネクタ | |
| 10 シリアルポートコネクタ | |

コンフィグレーションジャンパ

以下に、マザーボード上のコンフィグレーションジャンパの設定について説明します。

第4章 セットアップ

説明	ジャンパの設定	初期値
JP1 S/W Power Down for 250W sps ソフトウェアによる電源制御 (変更不可)	1-2 ソフトウェアによる電源制御を許す 2-3 ソフトウェアによる電源制御を許さない	*
JP2 CPU Bus Frequency	1-2、4-5（変更不可）	*
JP3 CPU Core / Bus周波数比	5-6、7-8（変更不可）	*
JP4 BIOS Type BIOSタイプ設定 (変更不可)	1-2 特殊なBIOSの設定 2-3 一般的なBIOSの設定	*
JP5 Password Security パスワード制御	1-2 パスワードチェック時の設定 2-3 パスワード通過時の設定	*
JP6 SCCI Termination SCSI終端設定 (変更不可)	1-2 上位8ビットとパリティビットのみ終端の設定 2-3 SCSI終端の設定をSCSIセットアップユーティリティで切替えられる	*
JP7 VGA disable VGA制御 (変更不可)	1-2 On board VGAを有効 2-3 On Board VGAを無効	*
JP8 Sound Output 音声出力の設定	1-2 プザー 2-3 スピーカー	*
JP9 Switching Power Supply Type 電源供給スイッチの設定	1-2 他の電源供給 2-3 ソフトウェアによる電源切断を許す	*
JP11 Flash ROM	1-2（変更不可） 2-3	*
JP12 Boot Block Flash ROM JP12	1-2（変更不可） 2-3	*

4.3 BIOS セットアップ・ユーティリティ

BIOS セットアップ・ユーティリティの概要や始めかたについて説明します。

4.3.1 BIOS セットアップ・ユーティリティについて

BIOS セットアップ・ユーティリティは、以下の場合に行います。

- PCI カードの設定を行う場合
- BIOS セットアップ・ユーティリティ特有の機能を設定する場合
- POST でエラーメッセージが表示された場合
- SMM (サーバモニタモジュール) カードを設定する場合



BIOS セットアップ・ユーティリティで設定した内容は、サーバ本体内部の CMOS RAM (以下、CMOS) および NVRAM に記録されます。この CMOS は、内蔵バッテリによって情報を持続しています。

セットアップを正しく行っても、POST でセットアップに関するメッセージが表示される場合は、CMOS に設定内容が保存されていないおそれがあります。原因としてバッテリが消耗していることが考えられますので、担当保守員までご連絡ください。

4

4.3.2 BIOS セットアップ・ユーティリティの始めかた

BIOS セットアップ・ユーティリティの始めかたは、以下のとおりです。

- 1) サーバ本体の電源を入れます。
- 2) POST のメモリカウント終了後、画面に [Enter Setup,Press Ctrl_Alt_Esc key] が表示されたら、メッセージが表示されている間に、[Ctrl] + [Alt] + [Esc] キーを押します。メインメニュー画面が表示されます。

4.3.3 BIOS セットアップ・ユーティリティでのキー操作

BIOS セットアップ・ユーティリティの設定時に使用するキーの役割は、以下のとおりです。

[F1] ヘルプを表示します。

[Esc] 現在の操作を中止し、前の操作にもどります。

[Enter] 設定項目を選択します。「Press Enter」となっている項目は、サブメニューがあることを示します。この項目のサブメニューを表示します。サブメニューが表示された状態で [Esc] キーを押すと、メニュー画面に戻ります。

[][] 設定する項目にカーソルを移動します。

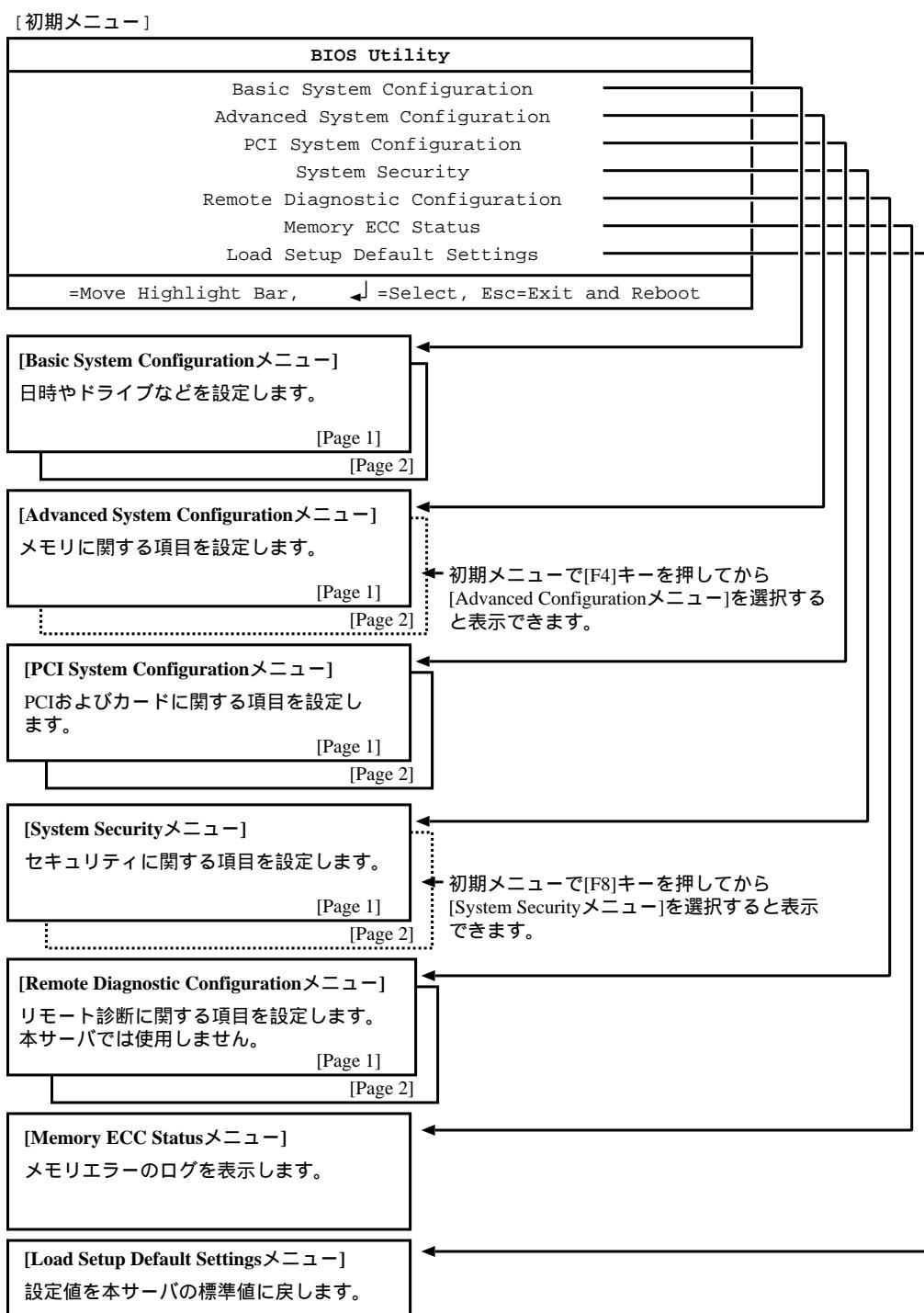
[][] メニューを切り替えます。

[PageUp] [PageDown]

次画面または前画面に移ります。

4.3.4 メニュー一覧

BIOS セットアップ・ユーティリティを起動したときのメニューを以下に示します。



4.3.5 Basic system Configuration メニュー

各設定項目の詳細は、以下のとおりです。

なお、「#」が付いていない項目は、工場出荷設定値を変更しないでください。

項目	内容(下線は工場出荷設定値)
#Date	月 / 日 / 西暦を設定します。西暦は下2桁を入力します。 例：1997年7月20日 07/20/97
#Time	時 : 分 : 秒を設定します。 時間は24時間形式で入力します。 例：午後6時30分00秒 18:30:00
Diskette Drive A Diskette Drive B	フロッピィディスクドライブのタイプ(記録密度とドライブサイズ)を設定します。 設定値は、以下のとあります。 <ul style="list-style-type: none"> • None • 360KB, 5.25-inch • 1.2MB, 5.25-inch • 720KB, 3.5-inch • <u>1.44MB, 3.5-inch</u> • 2.88MB, 3.5-inch
	本サーバ標準搭載のフロッピーディスクドライブ(Diskette Drive A:)は、1.44MB,3.5-inchに設定されています。Diskette Drive B:を使用しない場合は、Diskette Drive B:には“None”を設定してください。
Onboard IDE	ボード上のIDEを有効にするかどうかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <u>Enabled</u> 有効にします。 • Disabled 無効にします。
IDE Drive 0 IDE Drive 1 IDE Drive 2 IDE Drive 3	拡張IDE規格の内蔵CD-ROMドライブを取り付けたときに、次の中からIDE Driveの認識方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Auto 本サーバがIDEドライブのタイプを自動的に設定します。通常、CD-ROMが取り付けてある場合はAutoを設定してください。 • Manual 各設定値をキーボードから入力します。 [Enter]キーを押すと入力する項目にカーソルが移動し、値を入力できます。必要な項目を入力し終えたら、[Esc]キーを押して設定を終了します。
Total Memory	本サーバが利用できるメモリ容量を表示します。 表示のみの項目です。
Enhanced IDE Features	拡張IDE規格に対応したデバイスを使用するときに、ドライブの動作を設定します。
Hard Disk Block Mode	ブロック転送(データを複数セクタ分まとめて転送すること)を行うかどうかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <u>Enabled</u> ブロック転送を行います。 • Disabled ブロック転送を行いません。
Advanced PIO Mode	PIOモードのうち、最も高速なPIOモードに自動設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <u>Enabled</u> 高速なPIOモードに自動設定します。 • Disabled 通常の転送を行います。

項目	内容(下線は工場出荷設定値)
Hard Disk Size > 504MB	<p>本サーバに504MB以上のハードディスクを取り付けたときに設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>Enabled</u> 504MB以上のハードディスクを取り付けたときに設定します。 • <u>Disabled</u> 504MB未満のハードディスクを取り付けたときに設定します。 <p>ポイント 504MB以上のハードディスクをフォーマットする場合は、あらかじめ、実際に使用するOSに合わせて設定を行っておいてください。フォーマット後に設定を変えると、ハードディスクに正常にアクセスできなくなります。</p>
Hard Disk 32 Bit Access	<p>ハードディスクコントローラに32ビットでアクセスできるように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>Enabled</u> ハードディスクコントローラに32ビットでアクセスするときに選択します。 • <u>Disabled</u> ハードディスクコントローラに32ビットでアクセスしないときに選択します。
Large Memory Support Mode	<p>WindowsNT 3.51の場合、64MB以上の拡張メモリをサポートするかどうかを設定します。本サーバでは“Normal”のまま設定値を変えないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>Normal</u> • Advanced
Num Lock After Boot	<p>本サーバの電源を入れたあと、またはリセットしたあとに、キーボードをNum Lock状態にするかどうかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>Enabled</u> キーボードをNum Lock状態にします。 • <u>Disabled</u> キーボードをNum Lock状態にしません。
Memory Test	<p>ソフトリセットした後のPOSTでメモリテストを行うかどうかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>Enabled</u> POSTでのメモリテストを行います。 • <u>Disabled</u> POSTでのメモリテストを行いません。
Quiet Boot	<p>POST時にQuiet Boot (FUJITSUロゴの表示) を行うかどうかを設定します。Quiet Bootを行うと、POSTの途中経過は画面には表示されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>Enabled</u> Quiet Bootを行います。 • <u>Disabled</u> Quiet Bootを行いません。
Configuration Table	<p>本サーバのPOST後、構成表を表示するかどうかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>Enabled</u> 構成表を表示します。 • <u>Disabled</u> 構成表を表示しません。

4.3.6 Advanced System Configuration メニュー

各設定項目の詳細は、以下のとおりです。

当メニューでは工場出荷設定値を変更しないでください。

なお、初期メニューが表示されている状態で [F4] キーを押してから [Advanced System Configuration メニュー] を選択すると、より詳細な Advanced System Configuration メニューが表示されます。ただし、この詳細メニューの工場出荷設定値も変更しないでください。

項目	内容(下線は工場出荷設定値)	
L1&L2 Cache(CPU Cache)	システムのL1およびL2キャッシュメモリの設定をします。 • Enabled キャッシュメモリを有効にします。 • Disabled キャッシュメモリを無効にします。	
Cache Scheme	キャッシュメモリの制御方式を設定します。 • Write Back CPUによるメモリへのデータ書き込み時のデータ更新をライトバック方式で行います。 • Write Through CPUによるメモリへのデータ書き込みのデータ更新をライトスルー方式で行います。	
ECC/Parity Mode Selection	メモリエラーのチェックモードの設定およびチェックを行うかどうかを設定します。 • ECC ECCモードでチェックします。設定すると、データの1ビットエラー検出／自動訂正および2ビットエラー検出を行います。 ただし、自動訂正是Operation of ECCでCorrection Enabledに設定した場合に有効になります。エラーを検出した場合、システムにNMIを発行します。 • Parity パリティモードでチェックします。パリティエラーを検出した場合、システムにパリティエラーフラグを発行します。 • Disabled ECC機能およびパリティチェックの両方とも無効にします。 パリティ付きファストページモードDIMMは、ECCおよびParityのどちらの設定も有効になります。パリティ付きEDO DIMMはECCのみ有効になります。	
Operation of ECC	ECC/Parity Mode SelectionでECCを設定した場合に、設定可能となるパラメタで、ECCの自動訂正をするかどうかを設定します。 • Correction Enabled 自動訂正を行います。 • Correction Disabled 自動訂正を行いません。	
Memory at 15MB-16MB Reserved for	メモリを実装している拡張カードを本サーバに取り付けた場合、カードによってはカード上のメモリエリアと本サーバのメモリエリアが衝突してしまうことがあります。衝突しているメモリエリアを拡張カードが必要としている場合は、拡張カード側にメモリエリアを割り当てます。 • System 15MB-16MB間の1MBを本サーバに割り当てます。 • Add-on Card 15MB-16MB間の1MBを拡張カードに割り当てます。	
USB Host Controller	USBコントローラ機能を有効にするかどうかを設定します。 • Enabled USBデバイスを有効にします。 • Disabled USBデバイスを無効にします。	

第4章 セットアップ

項目	内容(下線は工場出荷設定値)
DRAM Write Burst Timing(EDO/FPM)	初期メニューで[F4]キーを押すと表示される詳細メニューです。
DRAM Read Burst Timing(EDO/FPM)	以下の工場出荷設定値を変更しないでください。
RAS to CAS delay	DRAM Write Burst Timing(EDO/FPM) <u>X-2-2-2 / X-3-3-3</u>
MA Wait state	DRAM Read Burst Timing(EDO/FPM) <u>X-2-2-2 / X-3-3-3</u>
Master Latency Timer for PCI slots	RAS to CAS delay <u>3</u>
Master Latency Timer	MA Wait state <u>Disable</u>
CPU_TO_PCI IDE POSTING ENABLE	Master Latency Timer for PCI slots <u>Auto</u>
USWC WRITE POST I/O ACCESS ENABLE	Master Latency Timer <u>20h</u>
CPU_TO_PCI WRITE POST ENABLE	CPU_TO_PCI IDE POSTING ENABLE <u>Enable</u>
PCI_TO_DRAM PIPELINE ENABLE	USWC WRITE POST I/O ACCESS ENABLE <u>Disable</u>
PCI BURST WRITE COMBINING ENABLE	CPU_TO_PCI WRITE POST ENABLE <u>Enable</u>
READ-AROUND-WRITE ENABLE	PCI_TO_DRAM PIPELINE ENABLE <u>Enable</u>
DRAM Refresh Type	PCI BURST WRITE COMBINING ENABLE <u>Enable</u>
F0000h-FFFFFh(System BIOS)	READ-AROUND-WRITE ENABLE <u>Enable</u>
C0000h-C7FFFh(Video BIOS)	DRAM Refresh Type <u>CAS-before-RAS</u>
	F0000h-FFFFFh(System BIOS) <u>Cacheable</u>
	C0000h-C7FFFh(Video BIOS) <u>Cacheable</u>

4.3.7 PnP/PCI System Configuration メニュー

各設定項目の詳細は、以下のとおりです。

なお、「#」が付いていない項目は、工場出荷設定値を変更しないでください。

項目	内容(下線は工場出荷設定値)
#PCI IRQ Setting	PCIカードの割り込みレベル(IRQ)を表示する項目です。 <ul style="list-style-type: none"> • <u>Auto</u> 自動的に設定します。 • Manual 手動で設定します。
PCI Slot1 PCI Slot2 PCI Slot3	Plug&Playに対応していないPCIカードを取り付けるときに、個別に割り込みレベルを表示します。 ■ ポイント スロットに割り当てられたIRQは、INTAに設定された値が使用されます。 ■ ポイント 本サーバが標準搭載している拡張IDEディスクおよびCD-ROM装置はIRQ15およびIRQ14を使用していますので、他のカードではIRQ15およびIRQ14は使用しないでください。
On Board SCSI On Board LAN VGA Palette Snoop	サーバ本体のSCSIの割り込みレベルを表示します。 サーバ本体のLANの割り込みレベルを表示します。 サーバ本体のビデオコントローラのパレット情報(画面に表示する色を定義した情報)を、ディスプレイカードなどのビデオコントローラからも参照できるように設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Enabled パレット情報を参照します。 • <u>Disabled</u> パレット情報を参照しません。
#On Board LAN	ボード上のLANを有効にするかどうかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <u>Enabled</u> 有効にします。 • Disabled 無効にします。
#On Board SCSI	ボード上のSCSIを有効にするかどうかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <u>Enabled</u> 有効にします。 • Disabled 無効にします。
#Boot Device	電源投入時、またはソフトリセット時にボード上のSCSIからブートするかどうかを設定します。SCSIアレイコントローラカードまたはSCSIカードに接続したハードディスクからブートする場合には、「Disabled」を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Enabled SCSIからブートします。 • <u>Disabled</u> SCSIからのブートは行いません。
PCI IRQ Sharing	複数のPCIカードでIRQを共有させるかどうかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Yes IRQを共有させます。 • No IRQを共有させません。
Plug & Play OS	Plug&Play OSを使用しているかどうかを設定します。本サーバでは「No」のまま変更しないでください。 <ul style="list-style-type: none"> • Yes Plug&Play OSを使用している場合 • <u>No</u> Plug&Play OS以外のOSを使用している場合
Reset Resources Assignment	割り当てられた資源をリセットするかどうかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Yes 資源をリセットします。 • No 資源をリセットしません。

4.3.8 Power Saving Configuration メニュー

各設定項目の詳細は、以下のとおりです。
当メニューでは工場出荷設定値を変更しないでください。

項目	内容(下線は工場出荷設定値)
Power Management Mode	省電力モードへの移行について設定します。ただし、本サーバでは以降の項目はサポートしていませんので変更しないでください。 • <u>Disabled</u> • Enabled
IDE Hard Disk Standby Timer	IDE規格のハードディスクのスタンバイモードへの時間を設定します(表示のみ)。 • <u>15</u> スタンバイモードへの移行時間を示します。 • OFF スタンバイモードに移行しません。
System Standby Timer	内蔵ハードディスクのスタンバイモードへの時間を設定します。 • <u>5</u> スタンバイモードへの移行時間を示します。 • OFF スタンバイモードに移行しません。
System Suspend Timer	システム全体を、サスPENDモードに移行させるまでの時間を設定します(表示のみ)。 • <u>15</u> システム全体のサスPENDモードへの移行時間を示します。 • OFF サスPENDモードに移行しません。
System/Wakeup Events	割り込みが発生したときに無視して省電力モードへの移行を続けるかどうかを設定します。初期値を変更しないでください。

4.3.9 System Security メニュー

各設定項目の詳細は、以下のとおりです。

初期メニューが表示されている状態で [F8] キーを押してから [System Security メニュー] を選択すると、より詳細な System Security メニューが表示されます。

なお、「#」が付いていない項目は、工場出荷設定値を変更しないでください。

項目	内容(下線は工場出荷設定値)
Disk Drive Control	フロッピィディスク、ハードディスクへの書込みや読み込みを禁止します。
Diskette Drive	フロッピィディスクへの書込みや読み込みを禁止します。 • <u>Normal</u> 通常どおり書込みや読み込みができます。 • Write Protect All Sectors すべてのセクタへの書込みを禁止します。 • Write Protect Boot Sectors ブートセクタへの書込みを禁止します。 • Disabled 書込みも読み込みも禁止します。
Hard Disk Drive	ハードディスクへの書込みや読み込みを禁止します。 • <u>Normal</u> 通常どおり書込みや読み込みができます。 • Write Protect All Sectors すべてのセクタへの書込みを禁止します。 • Write Protect Boot Sectors ブートセクタへの書込みを禁止します。 • Disabled 書込みも読み込みも禁止します。
System Boot Drive	OSをどのドライブから読み込むかを設定します。この項目は、上記のDiskette DriveかHard Disk Driveの項目のいずれかをDisabledに設定すると、灰色の文字で表示されて設定できなくなります。 • A : A ドライブから読み込みます。 • C : C ドライブから読み込みます。 • Driive C then A C ドライブから読み込みます。そして、C ドライブでOSが見つからない場合は、A ドライブから読み込みます。 • <u>Drive A then C</u> A ドライブから読み込みます。そして、A ドライブでOSが見つからない場合は、C ドライブから読み込みます。
Boot from CD-ROM	CD-ROMからのOS読み込みを設定します。 • Enabled CD-ROMから読み込みます。 • <u>Disabled</u> CD-ROMから読みません。 System Boot Driveで指定したドライブからブートします。

項目	内容(下線は工場出荷設定値)
On Board Communication Ports	シリアルコネクタから、パラレルコネクタのアドレス番号を設定します。
#Serial Port 1 Base Address	2つあるシリアルコネクタの1つ目のアドレス番号を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <u>3F8h</u> アドレスを3F8h(IRQ4)に設定します。 • 3E8h アドレスを3E8h(IRQ4)に設定します。 • 2F8h アドレスを2F8h(IRQ3)に設定します。 • 2E8h アドレスを2E8h(IRQ3)に設定します。 • Disabled シリアルコネクタを使用禁止にします。
#Serial Port 2 Base Address	2つあるシリアルコネクタの2つ目のアドレス番号を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <u>2F8h</u> アドレスを2F8h(IRQ3)に設定します。 • 2E8h アドレスを2E8h(IRQ3)に設定します。 • 3F8h アドレスを3F8h(IRQ4)に設定します。 • 3E8h アドレスを3E8h(IRQ4)に設定します。 • Disabled シリアルコネクタを使用禁止にします。
#Parallel Port Base Address	パラレルコネクタのアドレス番号を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <u>3BCh(IRQ7)</u> アドレスを3BChに設定します。 • <u>378h(IRQ7)</u> アドレスを378hに設定します。 • 278h(IRQ5) アドレスを278hに設定します。 • Disabled パラレルコネクタを使用禁止にします。
Operation Mode	<p>■ ポイント パラレルコネクタを備えた拡張コードを本サーバに取り付ける場合は、拡張カードのパラレルコネクタのアドレス番号が、標準装置のパラレルコネクタのアドレス番号と重複しないようにしてください。重複している場合は、POST時に「Onboard Parallel Port Conflict」と表示されます。</p> <p>Parallel Port Base Addressを3BChに設定した場合は、Operation ModeをEPPモードで使用することはできません。</p> <p>パラレルコネクタに接続する周辺装置の種類を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>Standard Parallel Port(SPP) Mode</u> • Standard and Bidirectional Mode 双方向モードを使用する周辺装置を接続します。 • Enhanced Parallel Port(EPP) Mode EPP規格の周辺装置を接続します。 • Extended Capabilities Port(ECP) Mode
ECP DMA Channel	<p>■ ポイント Operation ModeをEPPモードに設定した場合、Parallel Port Base Addressを3BChで使用することはできません。</p> <p>ECP規格の周辺装置が使用するDMAチャネルを設定します。Operation ModeをECPに設定した場合のみ設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 DMAチャネル1を使用します。 • 3 DMAチャネル3を使用します。 • -
Onboard PS/2 Mouse(IRQ12)	本サーバのマウスコネクタに接続したマウスを使用できるようにするかどうかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <u>Enabled</u> マウスを使用できるようにします。 • Disabled マウスを使用できないようにします。
#Setup Password	Setup Passwordは、特定の人だけがBIOSセットアップできるようにパスワードを設定します。Setupパスワードを設定すると、BIOSセットアップを始めるときにパスワードの入力を求められます。 <ul style="list-style-type: none"> • <u>None</u>

項目	内容(下線は工場出荷設定値)
#Power On Password	Power On Passwordは、特定の人だけが本サーバを使用できるようパスワードを設定します。Power On Passwordを設定すると、本サーバの電源を入れたときにパスワードの入力を求められます。 • <u>None</u>
以降の項目は、初期メニューが表示されている状態で[F8]キーを押すと表示されます。サーバモニタモジュール(SMM)搭載時に使用します。	
#INTEL SMM Card	サーバモニタモジュール(SMM)を有効にするかどうかを設定します。SMM(GP5-SM101)を使用する場合は「Enabled」に設定し、ICUで設定した資源を設定します。なお、メモリアドレスは当セットアップ内で設定できる範囲内でICUの設定をしてください。 •Enabled SMMを有効にします。 •Disabled SMMを無効にします。
#I/O	SMMに割り当てるI/Oポートアドレスを設定します。 • <u>110-113h</u>
#IRQ	SMMに割り当てるIRQを設定します。 • <u>10</u>
#Memory	SMMに割り当てるメモリアドレスを設定します。 • <u>C800h</u>
#DMA	SMMに割り当てるDMAチャネルを設定します。 • <u>3</u>

4

Setup Password および Power On Password のパスワードの設定方法

- 1) [][] キーで Setup Password、または Power On Password にカーソルを合わせ、[][] キーを押します。
パスワード入力用の画面が表示されます。
- 2) 7 行までのパスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。入力した文字は表示されず、ブロックのみが表示されます。
- 3) パスワードを入力したら [Enter] キーを押します。
パスワードを確認するための画面が表示されます。
パスワードの設定を中止するときは、[Esc] キーを押します。
- 4) 手順 2) で入力したパスワードを再び入力して [Enter] キーを押します。
設定値が Present になります。再入力したパスワードが手順 2) で入力したものと一致しない場合は、再び手順 2) と同じ画面が表示されます。再びパスワードを入力してください。
- 5) セットアップを終了し電源を切ってから、ジャンパセッティングを行います。
JP5 を 1-2 に変更します。

 ポイント

システム管理者やサーバのユーザ以外の人が無断でパスワードを消去することを防ぐため、フロントパネルに鍵を施錠してサーバを管理することをお勧めします。



ジャンパセッティングを行う場合は、サーバ本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。

パスワードを BIOS セットアップで設定しても、ジャンパセッティングを変更するまでは、有効にはなりません。



パスワードを忘れてしまい、BIOS セットアップや起動ができなくなったら、JP5 を 2-3 に戻してください。パスワードチェックが解除されます。



- 誤ったパスワードを3回入力すると、システムが停止します。その場合は、本サーバの電源をいったん切ってから、再び電源を入れ、その後正しいパスワードを再入力してください。
- Setup Password を設定せずに、Power On Password のみを設定した場合には、BIOS セットアップを始めることはできません。

Setup Password の削除 / 変更方法

Setup Password の削除や変更は、System Security メニューを開いて行います。削除するには、[][]キーで設定値を None に戻します。その後、BIOS セットアップを終了し、JP5 を 2-3 に戻します。1-2 のままでは、BIOS セットアップを始めることはできません。

変更するには、[][]キーで設定値を None に戻した後、再び[][]キーでパスワード入力用のウィンドウを表示させて、新しいパスワードを入力します。

Power On Password の削除方法

Power On Password を削除する方法は、次のとおりです。

- 本サーバの電源を入れます。
- パスワードを入力します。続けて [/] キーを押して [Enter] キーを押します。
Power On Password が削除されます。

Power On Password の変更方法

Power On Password を変更する方法は、次のとおりです。

- 本サーバの電源を入れます。
- パスワードを入力します。続けて [/] キーを押して新しいパスワードを入力します。
入力するパスワードは画面に表示されず、ブロックのみ表示されます。
- [Enter] キーを押します。
パスワードを確認するためのウィンドウが表示されます。
- 手順 2) で入力した新しいパスワードを再び入力して [Enter] キーを押します。
Power On Password が変更されます。

4.3.10 Remote Diagnostic Configuration メニュー

各設定項目の詳細は、以下のとおりです。

ただし、本サーバでは当メニューは使用しません。工場出荷設定値のまま変更しないでください。

項目	内容(下線は工場出荷設定値)	
Remote Console	RDMを使用したリモート診断項目を設定します。本サーバでは	
Hidden Partition	使用しません。以下の工場出荷設定値を変更しないでください。	
Communication Protocol	Remote Console	<u>Disabled</u>
COM Port Baud Rate	Hidden Partition	<u>Disabled</u>
Telephone Type	Communication Protocol	<u>N.8.1</u>
Remote Console Phone NO.	COM Port Baud Rate	<u>57600</u>
Dial Out Retry Times	Telephone Type	<u>Pulse</u>
Modem Initial Command	Remote Console Phone NO.	<u>(空白)</u>
RDM Work Mode	Dial Out Retry Times	<u>2</u>
Waiting Mode Password	Modem Initial Command	<u>(空白)</u>
System Critical Paging NO[1./2./3.]	RDM Work Mode	<u>Disabled</u>
Paging Times	Waiting Mode Password	<u>(空白)</u>
RDM EEPROM Verification	System Critical Paging NO[1./2./3.]	<u>(空白)</u>
	Paging Times	<u>1</u>
	RDM EEPROM Verification	<u>Disabled</u>

4

4.3.11 Memory ECC Status メニュー

各設定項目の詳細は、以下のとおりです。

なお、「#」が付いていない項目は、工場出荷設定値を変更しないでください。

項目	内容(下線は工場出荷設定値)													
1 Bit ECC Error	メモリエラー(1ビットエラーおよび2ビットエラー)のログを表示													
2 Bits ECC Error	します。ただし、表示するのは最後に発生したエラーだけです。 エラー発生時の操作については、「A.8 RAMモジュールの診断」 を参照してください。													
	・Bank	エラーが発生したRAMモジュールを示し ます。Bank番号は以下に示すRAMモジ ュールのスロット番号に対応しています。												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>Bank</th> <th>RAMモジュールのスロット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>None</td> <td>エラーなし</td> </tr> </tbody> </table>	Bank	RAMモジュールのスロット	0	1	1	2	2	3	3	4	None	エラーなし
Bank	RAMモジュールのスロット													
0	1													
1	2													
2	3													
3	4													
None	エラーなし													
#Clear ECC Error Status	・Date	エラーが発生した日付を表示します。												
	・Time	エラーが発生した時間を表示します。												
		ログをクリアするかどうかを設定します。												
	・Yes	ログをクリアします。												
	・No	ログをクリアしません。												

4.3.12 Load Setup Default Settings メニュー

Load Setup Default Settings メニューでは、設定値を標準状態に戻します。詳細は、次のとおりです。

設定方法

- 1) メインメニューから、[][]キーで Load Setup Default Settings を選択して、[Enter] キーを押します。

次のメッセージが表示されます。

Load Setup Default Settings. Are you sure?

- 2) [][]キーで Yes か No にカーソルを合わせて [Enter] キーを押します。

標準の設定値に戻すには、Yes を選択します。戻したくない場合は、No を選択します。

4.3.13 BIOS セットアップ・ユーティリティ終了

BIOS セットアップ・ユーティリティの終了方法は、次のとおりです。

- 1) [Esc] キーを押します。次のメッセージが表示されます。

<Do you want to save CMOS data?>

- 2) [][]キーで Yes か No にカーソルを合わせて [Enter] キーを押します。

設定内容を保存するには、Yes を選択します。保存しない場合は、No を選択します。本サーバがリセットされ、OS が読み込まれます。

4.4 SCSISelect ユーティリティ

SCSISelect ユーティリティの概要や始めかたなどは、以下のとおりです。

4.4.1 SCSISelect ユーティリティ

SCSISelect ユーティリティは、以下の場合に行います。

- ホストアダプタや SCSI オプションの設定の変更や確認を行う場合
- SCSI オプションの物理フォーマット、または媒体検査を行う場合

4.4.2 SCSISelect ユーティリティの起動と終了

SCSISelect ユーティリティの起動と終了の方法は以下の通りです。

本体標準の SCSI ホストアダプタ、およびその SCSI バス上の SCSI オプションの設定を行う場合

- 1) サーバ起動時(POST 実行中)に、以下の画面が表示されている間に [Ctl]+ [A] キーを押します。
SCSISelect ユーティリティが起動します。

- 2) 設定が終わったら [Esc] キーを押し、[Save Changes Mode?] メニューで「yes」を選択して設定値を保存します。
- 3) 再度 [Esc] キーを押し [Exit Utility?] メニューで「yes」を選択します。
SCSISelect ユーティリティが終了します。

4

オプション製品の SCSI カード、およびその SCSI バス上の SCSI オプションの設定を行う場合

- 1) サーバ起動時(POST 実行中)に、以下の画面が表示されている間に [Ctl]+ [A] キーを押します。
SCSISelect ユーティリティが起動します(以下の画面は GP5-121 での表示例)

- 2) 設定が終わったら [Esc] キーを押し、[Save Changes Mode?] メニューで「yes」を選択して設定値を保存します(設定値は、各 SCSI カード添付の取扱説明書を参照してください)。
- 3) 再度 [Esc] キーを押し [Exit Utility?] メニューで「yes」を選択します。
SCSISelect ユーティリティが終了します。
- 4) 設定変更を有効にするため、「Please press any key to reboot」と表示されたら、いずれかのキーを押します。
システムが再起動します。

ポイント

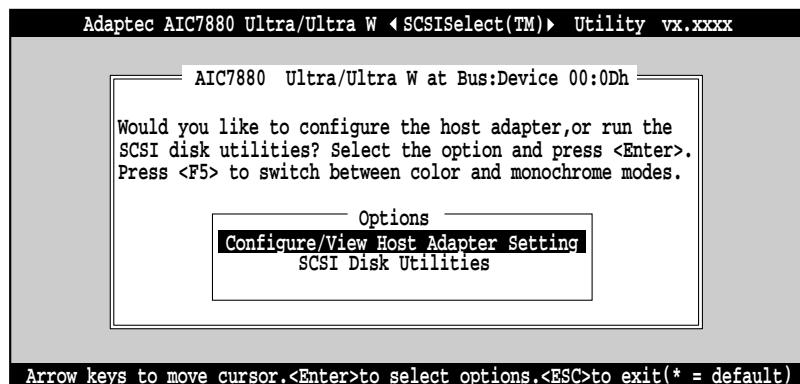
- オプション製品のユーティリティについては、各製品の取扱説明書を参照してください。
- SCSISelect ユーティリティでの設定は、各 SCSI バスに対して行ってください。

- SCSISelect ユーティリティが本サーバ内に複数（最大2枚）の SCSI カードを検出した場合、それらホストアダプタの PCI パス番号と PCI デバイス番号が表示されます。ここで、[] [] キーを用いて、設定したいホストアダプタを選択します。

オンボードSCSI	Bus : Device(00:0Fh)
PCIスロット1	Bus : Device(00:0Ch)
PCIスロット2	Bus : Device(00:0Dh)
PCIスロット3	Bus : Device(00:0Eh)

4.4.3 SCSISelect ユーティリティオプション

SCSISelect ユーティリティが起動すると以下のオプションメニューが表示されます。



各キーの役割

- [] [] カーソルを移動します。
- [Enter] 項目を選択します。サブメニューがある場合は、サブメニューを表示します。
- [Esc] 前のメニューに戻ります。
- [F5] SCSISelect ユーティリティ初期メニューにおいて、表示モードをカラーとモノクロで切り替えます。

4.4.4 Configure/View Host Adapter Settings

「#」が付いていない項目は、工場出荷設定値を変更しないでください。

SCSI Bus Interface Definitions

項目	内容(下線は工場出荷設定値)
Host Adapter SCSI ID	ホストアダプタのSCSI IDを0~15の間で設定します。ホストアダプタのSCSI IDは、SCSIバス上で最高の優先順位を持つ「7」に初期値として設定しています。この設定は変更しないことをお勧めします。
SCSI Parity Checking	ホストアダプタは、SCSIバスからデータを読み込むとき、常にデータのパリティチェックを行い、SCSIオプションからの正しいデータ転送を確認します。本サーバでサポートするSCSIオプションは全てSCSIパリティ機能を使うことができるので、工場出荷設定値は「Enabled」に設定しています。SCSIパリティをサポートしていないSCSIオプションを接続する場合は、本設定を「Disabled」に設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <u>Enabled</u> ホストアダプタのSCSIパリティチェックを有効にします。 • Disabled ホストアダプタのSCSIパリティチェックを無効にします。
Host Adapter SCSI Termination	ホストアダプタのSCSI終端(ターミネータ)を設定します。工場出荷設定値は、「Enabled」に設定しています。 <p> ポイント</p> <p>マザーボードの内部SCSIコネクタ(68ピン)および内部SCSIコネクタ(50ピン)の両方にSCSIデバイスを接続する場合は、「Disabled」に設定します。</p>

Additional Options

「#」が付いていない項目は、工場出荷設定値を変更しないでください。

項目	内容(下線は工場出荷設定値)										
Boot Device Options	OSのブートを試みるハードディスクのSCSI-IDの設定です。										
Boot Target ID	工場出荷設定値のまま変更しないでください。										
• 0	<u>• 0</u>										
{											
• 15											
Boot LUN Number	OSのブートを試みるハードディスクのLUNナンバーの設定です。工場出荷設定値のまま変更しないでください。										
• 0	<u>• 0</u>										
{											
• 7											
SCSI Device Configuration	ホストアダプタが、SCSIオプションにシンクネゴシエーション(同期の取り決め)を起動するかどうかを設定します。ホストアダプタとSCSIオプションの両方とも同期データ転送のネゴシエーションを行わない場合は、データ転送はすべて非同期で行われます。										
Initiate Sync Negotiation	<ul style="list-style-type: none"> • yes <u>ホストアダプタはSCSIオプションにシンクネゴシエーションを起動します。</u> • no <u>ホストアダプタはSCSIオプションに対しシンクネゴシエーションを起動しませんが、逆にホストアダプタはSCSIオプションが起動したシンクネゴシエーションには常に応答します。</u> 										
Maximum Sync Transfer Rate	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>SCSISelect転送速度</th> <th>AIC-7880実効最大転送速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20.0</td> <td>20.0 MB/s</td> </tr> <tr> <td>26.8</td> <td>26.8 MB/s</td> </tr> <tr> <td>32.0</td> <td>32.0 MB/s</td> </tr> <tr> <td><u>40.0</u></td> <td>40.0 MB/s</td> </tr> </tbody> </table> <p>ホストアダプタがサポートする最大同期転送速度を設定します。ホストアダプタは、Ultra SCSIの最大値の40.0MB/sまでの速度をサポートします。 工場出荷設定値は、「40.0」に設定しています。 ここで選択される値は、ホストアダプタが同期データ転送のネゴシエーションをしない設定(「Initiate Sync Negotiation」を「no」に設定)している場合、ホストアダプタがSCSIオプションからネゴシエーション中に受信する最大速度の値になります。</p>	SCSISelect転送速度	AIC-7880実効最大転送速度	20.0	20.0 MB/s	26.8	26.8 MB/s	32.0	32.0 MB/s	<u>40.0</u>	40.0 MB/s
SCSISelect転送速度	AIC-7880実効最大転送速度										
20.0	20.0 MB/s										
26.8	26.8 MB/s										
32.0	32.0 MB/s										
<u>40.0</u>	40.0 MB/s										
Enable Disconnection	<p>ホストアダプタが、SCSIオプションに対しSCSIバスからの切断(ディスコネクション)を許容するかどうかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • yes <u>SCSIオプションはSCSIバスからの切断が許可されます。この場合、SCSIオプションがSCSIバスから一時的に切断している間に、ホストアダプタがそのSCSIバス上で他のオペレーションを実行することができます。ホストアダプタに2台以上のSCSIオプションを接続する場合に有効です。</u> • no <u>SCSIオプションはSCSIバスからの切断が許されません。</u> 										

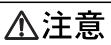
項目	内容(下線は工場出荷設定値)
Initiate Wide Negotiation	ホストアダプタがWide SCSIオプションを取り扱う場合に設定します。工場出荷設定値は、SCSI Device ID #4~6は「No」、それ以外は「Yes」に設定しています。
Send Start Unit Command	ホストアダプタが、SCSIオプションにスタートユニットコマンド(SCSIコマンド1B)を送信するかどうかを設定します。このオプション設定とSCSIオプションのハードウェア設定(ジャンパ設定など)の組み合わせにより、サーバ本体の電源にかかる負荷を軽減するため、サーバ起動時にホストアダプタがSCSIオプションに1台ずつ順次電源を投入していくことができます。しかし、この機能を多くのSCSIオプションに対し設定すると、それぞれのSCSIオプションにモータ回転待ち時間を要し、サーバ本体のブート時間が必然的に長くなります。この設定は、ホストアダプタのSCSI BIOSが「Enabled」に設定されている場合にのみ有効となります。 工場出荷設定値は、SCSI Device ID #4~7は「No」、それ以外は「Yes」に設定しています。
Include in BIOS Scan	ホストアダプタのSCSI BIOSがSCSIオプションをデバイスドライバ(ソフトウェア)を用いずにサポートするかどうかを設定します。この設定は、ホストアダプタのSCSI BIOSが「Enabled」に設定されている場合にのみ有効となります。 <ul style="list-style-type: none"> • yes ホストアダプタのSCSI BIOSは、SCSIオプションを制御します。 • no ホストアダプタのSCSI BIOSは、そのSCSIオプションを制御しません。「no」に設定したSCSIオプションを制御するためには、別途デバイスドライバが必要になります。
Advanced Configuration Options #Reset SCSI Bus at IC Initialization	サーバ起動時に、ホストアダプタがSCSIバスのリセット信号を出すかどうかを設定します。工場出荷設定値は「Disabled」に設定しています。 <p>■ ポイント マザーボードの内部SCSIコネクタ(68ピン)および内部SCSIコネクタ(50ピン)のどちらかにSCSIデバイスを接続する場合は、「Enabled」に設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Enabled ホストアダプタの初期化の際に、SCSI BIOSがSCSIバスをリセットし、それから2秒後にSCSIオプションのスキャンを開始します。 • <u>Disabled</u> 2秒間の遅延時間はありません。
Host Adapter BIOS(Configuration Utility Reserves BIOS Space)	ホストアダプタのSCSI BIOSの有効/無効を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <u>Enabled</u> ホストアダプタに接続されているSCSI固定ディスクドライブからサーバをブートする場合に設定します。また、本設定を有効にしなければ、SCSISelectユーティリティ内のいくつかのオプション設定が機能しません。 • <u>Disabled</u> ホストアダプタのSCSI BIOSを無効に設定します。

項目	内容 (下線は工場出荷設定値)
#Support Removable Disks Under BIOS as Fixed Disks	<p>リムーバブル・ディスクユニット(光磁気ディスクユニットなど)をSCSI BIOSの下で、SCSI固定ディスクドライブとしてサポートするかどうかを設定します。</p> <p>この設定はホストアダプタのSCSI BIOSが「Enabled」に設定されている場合にのみ有効となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>Boot Only</u> ブートデバイスに指定されたリムーバブル・ディスクユニットのみが、SCSI固定ディスクドライブとして扱われます。 • All Disks SCSI BIOSでサポートしているすべてのリムーバブル・ディスクユニットがSCSI固定ディスクドライブとして扱われます。 • Disabled リムーバブル・ディスクユニットはSCSI固定ディスクドライブとして扱われません。この場合には、別途デバイスドライバ(ソフトウェア)が必要になります。
	<p>リムーバブル・ディスクユニットをSCSI固定ディスクドライブとして取り扱う場合(リムーバブル・ディスクユニットをSCSI BIOSで制御している場合)、電源が供給されている間(オペレーション中)は媒体を取り出さないでください。データを失うおそれがあります。電源が入っている間も媒体の抜き挿しを行いたいときには、デバイスドライバをインストールし、このオプションを「Disabled」に設定します。</p>
#Extended BIOS Translation for DOS Drives > 1GByte	<p>1GB(1024MB)より大きい記憶容量をもつSCSI固定ディスクドライブのための拡張トランスレーション機能の有効/無効を設定します。</p> <p>この設定は、ホストアダプタのSCSI BIOSが「Enabled」に設定されている場合にのみ有効となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>Enabled</u> 1GB以上のSCSI固定ディスクドライブに対しては、255ヘッド、トラック当たり63セクタの拡張トランスレーション方式をとり、1GB以下のSCSI固定ディスクドライブに対しては、64ヘッド、トラック当たり32セクタの標準トランスレーション方式を採用します。 • Disabled すべてのSCSI固定ディスクドライブに対して、64ヘッド、トラック当たり32セクタの標準トランスレーション方式を採用します。

4.4 SCSISelect ユーティリティ

項目	内容(下線は工場出荷設定値)
	 ポイント <ul style="list-style-type: none">既にSCSI固定ディスクドライブがあるトランスレーション方式で区画設定を行っている場合、別のトランスレーション方式に変換するとデータを全て失うことになります。トランスレーション方式を変更する前には、必ずSCSI固定ディスクドライブ内の必要なデータをバックアップしてください。IntranetWare/NetWareでは、DOSの1024シリンダの制限はありませんので、拡張トランスレーションの機能を必要としません。本サーバを「IntranetWare/NetWare」で運用する場合は、必ずこのオプション設定を「Disabled」に設定してください。本サーバを「Windows NT Server」で運用する場合は、必ずこのオプション設定を「Enabled」に設定してください。
Display <Ctrl-A> Message During BIOS Initialization	電源投入時にSCSISelectユーティリティを起動するためのメッセージをCRT画面上に表示するかどうかの設定を行います。 工場出荷設定値のまま変更しないでください。
Multiple LUN Support	複数のLUNのあるSCSIデバイスをサポートするための設定です。本サーバでは、LUNをサポートしていません。工場出荷設定値のまま変更しないでください。
BIOS Support for Bootable CD-ROM	CD-ROMからのBOOTを行うかどうかを設定します。工場出荷設定値のまま変更しないでください。
BIOS Support for Int13 Extensions	1024シリンダより大きい容量のハードディスクをサポートするかどうかを設定します。工場出荷設定値のまま変更しないでください。
Support for Ultra SCSI Speed	Ultra SCSIデバイスのファースト転送速度(26.8 ~ 40.0MB/秒)をサポートするかどうかを設定します。工場出荷設定値は「Enabled」に設定されています。

4.4.5 SCSI Disk Utilities

項目	内容
Format Disk	<p>選択したSCSIオプションに対して、物理フォーマットを行います。</p> <p> ■ ポイント 本項目の物理フォーマットはそのSCSIオプションの全データを消去します。この機能を使う前には必ずバックアップを取っておいてください。物理フォーマットが開始されると、中断することはできません。</p> <p> △注意</p> <p> 物理フォーマット中にサーバ本体の電源を切ったり、リセットなどを行うとSCSIオプションなどが破損するおそれがあります。</p>
Verify Disk Media	<p>選択したSCSIオプションの媒体(メディア)のベリファイ(検査)を行います。不良ブロックが検出された場合、その割りつけを解除するかどうかプロンプト・メッセージが表示されますので、そこで「yes」を選択すると、そのブロックは使用されなくなります。</p> <p> ■ ヘルプ 媒体のベリファイは、[Esc]キーを押すことでいつでも中断することができます。</p>

4.5 セットアップディスク

本サーバには、セットアップディスクとして5枚のフロッピィディスクが添付されています。セットアップディスクはISA・コンフィグレーション・ユーティリティ(ICU)や各OSのインストールなどで使用します。ここではその構成とバックアップ方法について説明します。

4.5.1 構成

セットアップディスクには以下の5種類があります。

セットアップディスク#1

セットアップディスク#1には、ISAカードのパラメタ設定を行うISA・コンフィグレーション・ユーティリティ(ICU)が含まれています。

セットアップディスク#1は、ブータブル・ディスク(OSを起動可能なディスク)になってしまっていませんので、使用する場合は、あらかじめDOSシステムを転送しておく必要があります。

セットアップディスク#2

セットアップディスク#2には、MS-DOS 6.2の基本ファイルとして、いくつかのユーティリティファイルが含まれています。

NetWareなどでMS-DOSが必要な場合、セットアップディスク#2を使用してハードディスクの区画設定および基本ファイルのコピーを行います。また、セットアップディスク#2には環境設定ファイル(CONFIG.SYS や AUTOEXEC.BAT など)を簡単に編集できるようエディタ(EDIT.COM)も含まれています。

セットアップディスク#3

セットアップディスク#3には、本サーバに標準搭載されている拡張IDE規格のCD-ROM装置のMS-DOSドライバおよびインストールモデル復元ツールが含まれています。

セットアップディスク#4

セットアップディスク#4には、WindowsNT® Server 3.51およびNetWare3.12J/Vで必要となるAdaptec AIC-7870 PCI SCSIホストアダプタ用のSCSIディスクドライバが含まれています。

セットアップディスク#5

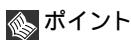
セットアップディスク#5には、WindowsNT® Server 3.51で使用するVGAドライバ(ATI MACH64グラフィックスドライバ)が含まれています。

4.5.2 セットアップディスクのバックアップの作成

セットアップディスクのバックアップを作成します。ICUを行う前に、必ずバックアップを作成してください。

バックアップには、5枚のプランクディスク(3.5インチフロッピィディスク)が別途必要になります。作業を行う前に用意し、バックアップを作成してください。

バックアップ作成後、セットアップディスク#1を起動ディスクにする必要があります。



- フロッピィディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピィディスクを取り出さないように注意してください。
- バックアップなどを行う場合、データ破壊などを防ぐため、マスタ(原本)となるフロッピィディスクに対し、ライトプロテクトされていることを確認しておいてください。
なお、セットアップディスク#2をバックアップする場合のみ、マスタのライトプロテクトを解除しておいてください。

起動ディスク（セットアップディスク#1）の作成

 ポイント

起動ディスクを作成するときは、必ず MS-DOS version6.2 のシステムを転送してください。

セットアップディスク#1を起動可能（ブータブル）なフロッピィディスクにします。

- 1) セットアップディスク#2をフロッピィディスクドライブにセットした状態で、DOSプロンプト（A:¥>）のあとに、以下のコマンドを入力し、[Enter]キーを押します。

A:¥>sys b: [Enter]

- 2) メッセージに従って、何度かフロッピィディスクの入れ換えを繰り返します。
「ディスクをドライブ B: に入れて準備ができたらどれかキーを押してください。」と表示されたら、セットアップディスク#1をフロッピィディスクドライブにセットします。
「ディスクをドライブ A: に入れて準備ができたらどれかキーを押してください。」と表示されたら、セットアップディスク#2をフロッピィディスクドライブにセットします。
- 3) システムの転送が終したら、次に ICU の実行に必要なファイルをコピーします。DOSプロンプト（A:¥>）のあとに、以下のコマンドを入力し、[Enter]キーを押します。

A:¥>copy himem.sys b: /v [Enter]

- 4) メッセージに従って、フロッピィディスクの入れ換えを行います。
「ディスクをドライブ B: に入れて準備ができたらどれかキーを押してください。」と表示されたら、セットアップディスク#1をフロッピィディスクドライブにセットします。
「ディスクをドライブ A: に入れて準備ができたらどれかキーを押してください。」と表示されたら、セットアップディスク#2をフロッピィディスクドライブにセットします。
- 5) 次に以下のコマンドを入力し、[Enter]キーを押します。

A:¥>copy mouse.com b: /v [Enter]

- 6) メッセージに従って、フロッピィディスクの入れ換えを行います。
「ディスクをドライブ B: に入れて準備ができたらどれかキーを押してください。」と表示されたら、セットアップディスク#1をフロッピィディスクドライブにセットします。
「ディスクをドライブ A: に入れて準備ができたらどれかキーを押してください。」と表示されたら、セットアップディスク#2をフロッピィディスクドライブにセットします。
- 7) ファイルのコピーが終したら、ICU の作成は完了です。
*以降、ICU を実行するときには、本作業で作成したセットアップディスク#1を使用します。

4.6 ISA・コンフィグレーション・ユーティリティ(ICU)

ISA コンフィグレーション・ユーティリティ(以下、ICU)による設定は、以下の場合に行います。

- ISA カードを取り付けたり、取り外したりする場合
- サーバ本体の資源を参照する場合
- PCI カードに IRQ を設定する場合は、ISA カードの IRQ 以外を設定する必要があります。その場合に ICU を起動して IRQ を参照します。

ICU は、サーバシステムを正常に機能させるための重要なパラメータを設定します。またその設定値をサーバ本体内の CMOS RAM(以下 CMOS)および NVRAM(不揮発性メモリ)に記録、保存します。

4.6.1 ICU 実行時の準備

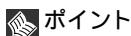
ICU を行う前に、以下のフロッピィディスクを用意します。

- セットアップディスク#1
- ISA カードの CFG ファイルが含まれているフロッピィディスク



セットアップディスク#1 および#2 は、作成したバックアップフロッピィディスクを使用してください。

次に、追加する ISA カードが用意している CFG ファイルをセットアップディスク#1 に登録する必要があります。



通信カード V/X(FMV-167)、プリンタ増設カード(FMV-131)の CFG ファイルは、標準でセットアップディスク#1 に組み込まれていますので、CFG ファイルをコピーする必要はありません。ICU の起動から作業を進めてください。

CFG ファイルの登録方法について、以下に示します。

- 1) セットアップディスク#1 をフロッピィディスクドライブにセットし、本サーバを起動します。
- 2) DOS プロンプト(A:>)を表示させます。
- 3) セットアップディスク#1 をフロッピィディスクドライブから取り出し、ISA 拡張カードに添付の CFG ファイルが含まれているフロッピィディスクをセットします。

セットしたら、以下のコマンドを入力します。

```
A:>copy !*.cfg b:icu\db /v [Enter]
```

- 4) メッセージにしたがって、フロッピィディスクの入換えを行います。

「ディスクをドライブ B:に入れて準備ができたらどれかキー押してください。」と表示されたら、セットアップディスク#1 (ICU) をフロッピィディスクドライブにセットします。

「ディスクをドライブ A:に入れて準備ができたらどれかキー押してください。」と表示されたら、ISA カードの CFG ファイルが含まれているフロッピィディスクをセットします。

- 5) コピーされたら、セットアップディスク#1 をフロッピィディスクドライブにセットします。

DOS プロンプト画面で、カレントディレクトリを A:\db に変更後、cfgndx.exe を実行します。

```
A:>cd db [Enter]
A:>cfgndx [Enter]
```

- 6) icu.ndx というファイルに CFG ファイルが登録されます。

4.6.2 ICU の起動

ICU の起動方法は以下のとおりです。

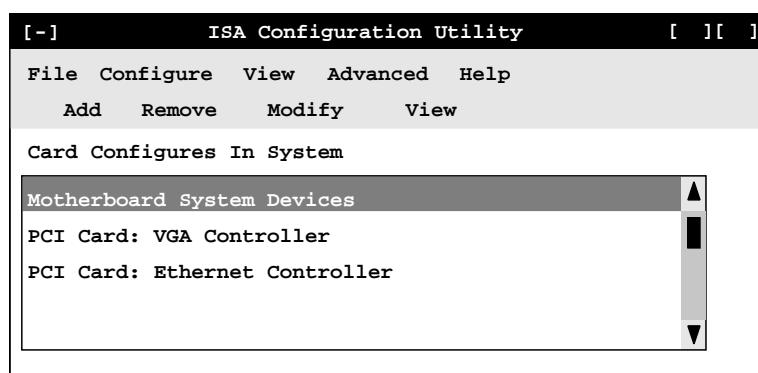
- 1) セットアップディスク#1(ICU)をサーバ本体フロッピィディスクドライブにセットし、サーバを起動します。

画面に「 A:¥icu 」が表示されます。

- 2) icu.exe を実行します。

```
A:¥icu>icu [Enter]
```

- 3) ICU のメインメニューが表示されます。



ポイント

- 操作中に画面の設定内容が見えなくなることがあります。その場合は、キャンセルを選択して前の画面に戻るか、マウスで見えなくなった部分を選択するか、カーソルキーで見えなくなった部分を選択すると、設定内容が見えるようになります。
- 「ISA・コンフィグレーション・ユーティリティ」メニューには、現在システムにインストールされているカードのリストが表示されます。ツールバーをクリックする、またはメニューの中から選ぶと、ICU は順を追って適切なダイアログボックスを表示するので、それに従ってください。
- 拡張カードの追加、移動、取り外しを行う場合には、必ずコンフィグレーション情報を保存する前に拡張カードのシステム資源(I/O ポートアドレス、割込み(IRQ)レベル、DMA チャネル、メモリアドレス)を手動で確認し、記録しておいてください。コンフィグレーション情報を記録する場合には、「4.7 コンフィグレーション・シート」を利用してください。

4.6.3 ICU の操作

各メニューおよびウィンドウは、マウスを用いて操作します。マウスを使用できない場合は、以下のキーを使用します。

[Alt] + キー

[Alt] を押しながら下線の付いた文字を入力すると、メニューの中を移動できます。例えば、[File] メニューをオープンして [Save] を選択する場合、[Alt] + [F] を押してから [S] を押します。

[Alt] + [F4]

メニュー画面左上の [-] を選択する時、このキーを押します。

[tab] 別の制御ボタンまたはリストボックスに移動する時、このキーを押します。

[] [] リストボックスの選択ボックスを上下に移動する時、これらのキーを押します。

[空白] リストボックス内の項目を実際に選択する（強調表示する）時、このキーを押します。

[Enter] 強調表示されたボタンまたはリスト項目を選択する時、このキーを押します。

これらのキーはマウスが使用可能な場合にも使用できます。

各ダイアログボックスは、[Cancel] または [Close] をクリックすると現在の操作がキャンセルされ、前のダイアログボックスに戻ります。

4.6.4 カードの設定

この節では、ICU の各種機能の使用方法について説明します。



サーバに ISA カードを挿入する前に、必ずシステムコンフィグレーションにカードのコンフィグレーション情報を登録してください。

4

1) システム・コンフィグレーションの参照

「ISA・コンフィグレーション・ユーティリティ」メニューには、システムに現在設定されているカードが表示されています。

ICU は、以下のカードに対するコンフィグレーション情報を表示します。

- マザーボード
- プラグ & プレイ ISA カード
- ISA カード
- PCI カード

ICU は、システムが使用するすべての資源を参照したり、システムにインストールされている各カードが使用している資源を参照することができます。

・システムの資源使用状況の参照

システムが使用するすべての資源を参照するには、[View] メニューで [System Resources...] を選択します。使用中のすべての資源がシステムの資源状況 (System Resource Usage) ダイアログボックスに表示されます。

各ボタンの意味を以下に示します。

Used By Card...

System Resource Usage ダイアログボックスに表示されている特定の資源を使用しているカードの資源使用状況を参照する場合に選択します。

Print To File (選択不可)

System Resource Usage ダイアログボックスに表示された情報をファイルに保存します。ただし、選択しないでください。

・カードの資源使用状況の参照

特定のカードが使用する資源を表示するには、[View] メニューで [Card Resources...] を選択するか、System Resource Usage ダイアログボックスから [Used By Card...] ボタンを選択します。そのカードに割り当てられている資源が、カードの資源使用状況 (Card Resource Usage) ダイアログボックスに表示されます。

ここでは [Print To File] ボタンは選択しないでください。

2) カードの追加

ここではカードの追加方法について説明します。

- 1) カードを追加する場合は、[Add] ボタンを押すか、[Configure] メニューから [Add Card] を選択します。次に追加するカードの種類を指定します（例えばSMM カードは [Others] を選択します）。
- 2) Add ダイアログボックスが表示されます。
Add ダイアログボックスには、ICU が情報を持っているカードのリストが表示されます。
- 3) 追加するカードの名前をリストボックスから選択します。

 ポイント

リストボックス内の [Unlisted Card] は選択しないでください。選択した場合は、次に表示されるウィンドウで [Cancel] を選択してやり直してください。

- 4) ICU に設定されている情報を元に自動的に資源を獲得する場合は、[OK] ボタンを選択します。

以下のメッセージが表示されます。

**You have added a card using setting different from
factory default. reconfigure the card to the setting
in the next display (see the card's manual)before
installing it.**

[OK] ボタンを選択してください。選択後は手順 9) を行います。

- 5) カードを個別に設定する場合は、[Advanced...] ボタンを選択します。

Card Configuration ダイアログボックスが表示されます。カードのすべてのアクティブな機能と各機能の現在の設定が表示されています。

各機能を変更するには、変更する機能を選択して [Settings...] ボタンを選択します。Configuration Settings ダイアログボックスが表示されます。ここでは、コンフィグレーション選択 (Configuration Choice)、IRQ、DMA チャネル、メモリ、I/O ポートの設定変更が可能です。

コンフィグレーション選択を設定すると、その機能に割り当てることができる資源が決定されます。選択を変更すると、IRQ などの各資源のリスト内容も変更されます。

 ポイント

- ・ 資源のリスト内容を変更してから、その機能のコンフィグレーション選択を変更すると、資源の変更内容が無効になります。
- ・ ここで変更した資源がほかのデバイスの資源と競合していた場合は、以下のメッセージが表示されます。

**This operation cannot be completed because of a resource conflict
one.conflicting card is [カード名].the conflict with that
card is [資源名] but there may....**

この場合は、その資源を選択することはできません。

- 6) 各資源のリスト内容以外にさらに割当てを変更する場合は、資源のリストボックス下の [Options] ボタンを選択することができます。[Options] ボタンは選択した資源の種類によって名称が変わります。
- 7) [Options] ボタンを押すと、ダイアログボックスが表示され、その資源に対して使用可能な（未使用の）値のリストが選択できます。[OK] ボタンを押すと、選択した値が Configuration Settings ダイアログボックスの資源のリスト内容に反映されます。
- 8) すべての機能に対する資源の選択が完了したら、Configuration Settings ダイアログボックスの [OK] ボタンを選択します。

以下のメッセージが表示されます。

You have added *** using the settings
shown in the next display. Configure the card to
these setting (see the card's manual) before.....**

- [OK] ボタンを選択してください。
- 9) Card Resource Usage ダイアログボックスが表示され、ICU で割り当てられた資源が表示されます。その値を拡張 ISA カードに設定してください。

また、ここでは [Print to File] ボタンは選択しないでください。

ポイント

NOS インストールモデルで初めて ICU を実行した場合は、SMM（サーバモニタモジュール）の CFG ファイルが必要となります。SMM 用 CFG ファイル（! INT0016.CFG）は、サーバモニタモジュールユーティリティディスクに入っています。

4

3) カードのコンフィグレーションの変更

現在、設定されているカードの資源の設定を変更します。この機能は、新たなカード設定時に、すでに設定されているカードの資源を変更する場合などに使用します。

ポイント

ICU によってシステムコンフィグレーションを変更したら、必ずカードジャンパも合わせて変更する必要があります。カードの設定の詳細については、カードメーカーのマニュアルを参照してください。

ICU が情報を持っているカードの資源の変更について説明します。

- 1) 「ISA・コンフィグレーション・ユーティリティ」メニューに表示されているカードのリストからカード名を選択します。[Modify] ボタンを押すか、[Configure] メニューから [Modify Card...] を選択します。
 - 2) 定義されているカードの場合は、Card Configuration ダイアログボックスが表示されます。
 - 3) 変更する機能を選択し、[Settings...] ボタンを選択します。
 - 4) Configuration Settings ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、選択した機能の現在のコンフィグレーション選択と、そのコンフィグレーション選択に割り当てられている資源が表示されています。
ここでは、コンフィグレーション選択（Configuration Choice）、IRQ、DMA チャネル、メモリ、I/O ポートの設定変更が可能です。
- コンフィグレーション選択を設定すると、その機能に割り当てることができる資源が決定されます。選択を変更すると、IRQ などの各資源のリスト内容も変更されます。

 ポイント

- 資源のリスト内容を変更してから、その機能のコンフィグレーション選択を変更すると、資源の変更内容が無効になります。
- ここで変更した資源がほかのデバイスの資源と競合していた場合は、以下のメッセージが表示されます。

**This operation cannot be completed because of a resource conflict
one.conflicting card is [カード名].the conflict with that
card is [資源名] but there may....**

この場合は、その資源を選択することはできません。

- 各資源のリスト内容以外にさらに割当てを変更する場合は、資源のリストボックス下の [Options] ボタンを選択することができます。[Options] ボタンは選択した資源の種類によって名称が変わります。
- [Options] ボタンを押すと、ダイアログボックスが表示され、その資源に対して使用可能な(未使用の)値のリストが選択できます。[OK] ボタンを押すと、選択した値が Configuration Settings ダイアログボックスの資源のリスト内容に反映されます。
- すべての機能に対する資源の選択が完了したら、Configuration Settings ダイアログボックスの [OK] ボタンを選択します。
- 別の機能も含めてすべての変更を完了したら、Card Configuration ダイアログボックスで [OK] を選択します。

以下のメッセージが表示されます。

you have modified ***to use the setting
shown in the next display . Verify the card is configured
for these setting (see the card's**

[OK] ボタンを選択してください。

 ポイント

PCI カードの資源は変更できません。PCI カードは資源の表示、ロックまたはアンロックすることしかできません。なお、これらの資源は Card Resource Usage ダイアログボックスに表示され、System Resources Usage ダイアログボックスには表示されません。

- Card Resource Usage ダイアログボックスが表示されます。これでコンフィグレーションの変更が完了しました。

4) システムからのカードの削除

ここでは、現在設定されているカードの削除について説明します。

- 「ISA・コンフィグレーション・ユーティリティメニュー」に表示されているカードのリストからカード名を選択します。[Remove] ボタンを押すか、[Configure] メニューから [Remove Card] を選択します。
- 削除するかどうかのメッセージが表示されます。[Yes] を選択すると、そのカードに割り当てられていた資源が解放され、リストからそのカードが削除され、ISA コンフィグレーションユーティリティメニューに戻ります。[No] または [Cancel] を選択すると、削除されずに ISA コンフィグレーションユーティリティメニューに戻ります。

⚠ 注意

ICU を使用してカード コンフィグレーションを削除したら、必ずシステムの電源を切ってカードを取り外してください。これを行わないシステム故障の原因となることがあります。

PCI カードを削除する場合は、ICU を実行する必要はありません。PCI カードについては、システムの電源を切ってカードを取り外してください。

4.6.5 システムコンフィグレーションの保存

各カードの資源設定時に、システムコンフィグレーション内容を不揮発性メモリに保存することができます。

ISA・コンフィグレーション・ユーティリティメニューで [File] メニューから [Save] を選択します。

4.6.6 ICU の終了

ここでは ICU の終了方法について説明します。

- 1) ISA コンフィグレーションユーティリティメニューで [File] メニューから [Exit] を選択します。
- 2) システムコンフィグレーションを変更した場合は、終了確認メッセージが表示されます。
- 3) [Yes] を選択すると、変更内容を不揮発性メモリと system.img というファイルに保存し、終了します。[No] を選択すると、変更内容を保存せずに終了します。[Cancel] を選択すると、ISA コンフィグレーションユーティリティメニューに戻ります。
- 4) ICU を終了すると、いったん電源を切断して、フロッピディスクドライブからセットアップディスク #1 を取り外して、電源を再投入してください。システムコンフィグレーションの内容が反映されます。

ポイント

- コンフィグレーションに追加、変更、削除、またはロックなどの変更を行った後は、システムの電源を切って、必要に応じてカードのインストール、取り外し、またはジャンパーの設定の変更を行ってください。これにより、新しい資源の割当てが有効になります。
- サーバモニタモジュール(SMM)を設定した場合は、ICU 終了後必ず BIOS セットアップユーティリティで設定してください。

⚠ 注意

ICU には、割り当てた資源のロック、システムコンフィグレーションイメージファイルの呼び出し / 保存などの機能を持つ詳細メニューがありますが、本サーバでは使用しないでください。

4.7 コンフィグレーション・シート

本サーバにおけるハードウェアの構成と各種セットアップの設定値を記録しておきます。

選択設定箇所については マークのチェックボックスを用意してありますので、設定したチェックボックスを塗りつぶすか、またはレ印を付けておきます。

なお、工場出荷時の設定値は で示しています。また、変更禁止の設定項目については で示しています。

4.7.1 ハードウェア構成

1) 5インチオプション (SCSI-IDは装置で任意に設定可能)

1. CD-ROM	(全モデル標準搭載)	
2. テープバックアップユニット(ID#4)	DAT(SCSI ID#4)	光磁気ディスク(SCSI ID#4)
3. テープバックアップユニット(ID#5)	DAT(SCSI ID#5)	光磁気ディスク(SCSI ID#5)

2) 3.5インチHDDオプション (SCSI-IDはハードディスク装置で任意に設定可能、設定方法は本体添付の取扱説明書をご覧ください)

1. 4GB-HDD(拡張IDE規格)	(全モデル標準搭載)
2. 4GB-HDD(SCSI ID#0)	
3. 4GB-HDD(SCSI ID#1)	
4. 4GB-HDD(SCSI ID#2)	

3) RAMモジュール

MEMスロット1	32MB-DIMM	64MB-DIMM	128MB-DIMM	1
MEMスロット2	32MB-DIMM	64MB-DIMM	128MB-DIMM	
MEMスロット3	32MB-DIMM	64MB-DIMM	128MB-DIMM	
MEMスロット4	32MB-DIMM	64MB-DIMM	128MB-DIMM	

1 WindowsNT Serverインストールタイプは64MB-DIMM、その他のタイプは32MB-DIMMを実装済

4) オプションカード

1. PCIスロット1	SCSIカード(GP5-121)	SCSIアレイコントローラカード(FMS-127)
	SCSIアレイコントローラカード(GP5-141)	LANカード(FMV-188)
	LANカード10BASE-5/2/T(GP5-181)	ATM-LANカード(FMV-187)
	MSLキット(FMS-193)	その他
2. PCIスロット2	SCSIカード(GP5-121)	LANカード(FMV-188)
	LANカード10BASE-5/2/T(GP5-181)	ATM-LANカード(FMV-187)
	MSLキット(FMS-193)	その他
3. PCIスロット3	SCSIカード(GP5-121)	SCSIアレイコントローラカード(FMS-127)
	SCSIアレイコントローラカード(GP5-141)	LANカード(FMV-188)
	LANカード10BASE-5/2/T(GP5-181)	ATM-LANカード(FMV-187)
	MSLキット(FMS-193)	その他
4. ISAスロット1	ISDNカード(FMV-166)	RS-232Cカード(FMV-165)
	通信カードV/X(FMV-167)	プリンタカード(FMV-131)
	サーバモニタモジュール(GP5-SM101)	その他
5. ISAスロット2	ISDNカード(FMV-166)	RS-232Cカード(FMV-165)
	通信カードV/X(FMV-167)	プリンタカード(FMV-131)
		その他

4.7.2 BIOS セットアップ項目

Basic System Configuration メニューの設定項目

設定項目	設定値		
Date	現在の日付が表示されます。		
Time	現在の時刻が表示されます。		
Diskette Drive A	None 1.44MB 3.5-inch	360KB 5.25-inch 2.88MB 3.5-inch	1.2MB 5.25-inch 720KB 3.5-inch
Diskette Drive B	None 1.44MB 3.5-inch	360KB 5.25-inch 2.88MB 3.5-inch	1.2MB 5.25-inch 720KB 3.5-inch
On board IDE	Enabled	Disabled	
IDE Drive 0	Auto	Manual	
IDE Drive 1	Auto	Manual	
IDE Drive 2	Auto	Manual	
IDE Drive 3	Auto	Manual	
Total Memory	搭載されているメモリ容量が表示されます。		
Enhanced IDE Features			
Hard Disk Block Mode	Enabled	Disabled	
Advanced PIO Mode	Enabled	Disabled	
Hard Disk Size > 504MB	Enabled	Disabled	
Hard Disk 32-bit Access	Enabled	Disabled	
Large Memory Support Mode	Normal	Advanced	
Num Lock After Boot	Enabled	Disabled	
Memory Test	Enabled	Disabled	
Quiet Boot	Enabled	Disabled	
Configuration Table	Enabled	Disabled	

Advanced System Configuration メニューの設定項目

設定項目	設定値	
L1&L2 Cache(CPU Cache)	Enabled	
Cache Scheme	Write Back	Write Through
ECC/Parity Mode Selection	ECC	Parity
Operation of ECC	Correction Enabled	Correction Disabled
Memory at 15MB-16MB Reserved for	System	Add-on Card
USB Host Controller	Enabled	Disabled
DRAM Write Burst Timing(EDO/FPM)	X-2-2-2 / X-3-3-3	
DRAM Read Burst Timing(EDO/FPM)	X-2-2-2 / X-3-3-3	
RAS to CAS Delay	3	
MA Wait State	Disable	
Master Latency Timer for PCI slots	Auto	
Master Latency Timer	20h	
CPU_TO_PCI IDE POSTING ENABLE	Enable	
USWC WRITE POST I/O ACCESS ENABLE	Disable	
CPU-TO-PCI WRITE POST ENABLE	Enable	
PCI-TO-DRAM PIPELINE ENABLE	Enable	
PCI BURST WRITE COMBINING ENABLE	Enable	
READ-AROUND-WRITE ENABLE	Enable	
DRAM Refresh Type	CAS-before-RAS	
F0000h-FFFFFh(System BIOS)	Cacheable	
C0000h-C7FFFh(Video BIOS)	Cacheable	

PnP/PCI System Configuration メニューの設定項目

設定項目	設定値	
PCI IRQ Setting	Auto	Manual
PCI Slot 1		
PCI Slot 2		
PCI Slot 3		
On board SCSI		
On board LAN		
VGA Palette Snoop	Enabled	Disabled
On Board Lan	Enabled	Disabled
On board SCSI	Enabled	Disabled
Boot Device (注)	Enabled	Disabled
PCI IRQ Sharing	Yes	No
Plug & Play OS	Yes	No
Reset Resources Assignment	Yes	No

(注)SCSIアレイコントローラカードまたはSCSIカードに接続したハードディスクからブートする場合には、「Disabled」を指定します。

Power Saving Configuration メニューの設定項目

設定項目	設定値	
Power Management Mode	Enabled	Disabled
IDE Hard Disk Standby Timer	15 Minutes (1-15の間で設定可能)	OFF
System Standby Timer	5 Minutes (2-120の間で設定可能)	OFF
System Suspend Timer	15 Minutes (2-120の間で設定可能)	OFF
System/Wakeup Events		
IRQ 0	Enabled	Disabled
IRQ 1	Enabled	Disabled
IRQ 3	Enabled	Disabled
IRQ 4	Enabled	Disabled
IRQ 5	Enabled	Disabled
IRQ 6	Enabled	Disabled
IRQ 7	Enabled	Disabled
IRQ 8	Enabled	Disabled
IRQ 9	Enabled	Disabled
IRQ 10	Enabled	Disabled
IRQ 11	Enabled	Disabled
IRQ 12	Enabled	Disabled
IRQ 13	Enabled	Disabled
IRQ 14	Enabled	Disabled
IRQ 15	Enabled	Disabled

System Security メニューの設定項目

設定項目	設定値					
Disk Drive Control						
Diskette Drive	Normal	Write Protect All Sectors	Write Protect Boot Sector			
Hard Disk Drive	Normal	Write Protect All Sectors	Write Protect Boot Sector			
System Boot Drive	A : C :	Drive C then A	Drive A then C			
Boot from CD-ROM	Enabled	Disabled				
On Board Communication Ports						
Serial Port 1 Base Address	3F8h	3E8h	2F8h	2E8h	Disabled	
Serial Port 2 Base Address	2F8h	2E8h	3F8h	3E8h	Disabled	
Parallel Port Base Address	3BCh(IRQ7)	378h(IRQ7)	278h(IRQ5)	Disabled		
Operation Mode	Standard Parallel Port(SPP) Mode Enhanced Parallel Port(EPP) Mode Extended Capabilities Port(ECP) Mode		Standard and Bidirectional Mode			
ECP DMA Channel	1 3	-(灰色で表示)				
On board PS/2 Mouse(IRQ12)	Enabled	Disabled				
Setup Password	設定時に入力する	None				
Power On Password	設定時に入力する	None				
INTEL SMM Card	Enabled	Disabled				
I/O	110-113H	210-213H	310-313H			
IRQ	4 5 6 7 10 11 12 14 15					
Memory	D0000h DC000h	D2000h DE000h	D4000h C8000h	D6000h CA000h	D8000h CC000h	DA000h CE000h
DMA	0 1 3 5 7					

Remote Diagnostic Configuration メニューの設定項目

設定項目	設定値
Remote Console	Disabled
Hidden Partition	Disabled
Communication Protocol	N, 8, 1
COM Port Baud Rate	57600
Telephone Type	Pulse
Remote Console Phone NO.	(空白)
Dial Out Retry Times	2
Modem Initial Command	(空白)
RDM Work Mode	Disabled
Waiting Mode Password	(空白)
System Critical Paging NO[1./2./3.]	(空白)
Paging Times	1
RDM SEEPROM Verification	Disabled

Memory ECC Status メニューの設定項目

設定項目	設定値
1 Bit ECC Error	エラー発生時表示
2 Bits ECC Error	エラー発生時表示
Clear ECC Error Status	Yes No

4.7.3 SCSI Select ユーティリティ

Bus Device 00:0Fh (On-board SCSI コントローラ) の設定

Configure/View Host Adapter Settings

設定項目	設定値							
SCSI Bus Interface Definitions								
Host Adapter SCSI ID	0 8	1 9	2 10	3 11	4 12	5 13	6 14	7 15
<hr/>								
SCSI Parity Checking	Enabled	Disabled						
Host Adapter SCSI Termination	Enabled	Disabled						

Additional Options

Boot Device Options → ① ^
 SCSI Device Configuration → ② ^
 Advanced Configuration Options → ③ ^

① Boot Device Options

設定項目	設定値							
Boot Target ID	0 8	1 9	2 10	3 11	4 12	5 13	6 14	7 15
Boot LUN Number	0 8	1 9	2 10	3 11	4 12	5 13	6 14	7 15

② SCSI Device Configuration

設定項目	設定値							
SCSI Device ID #0								
Initiate Sync Negotiation	yes	no						
Maximum Sync Transfer Rate	40.0	32.0	26.8	20.0				
Enable Disconnection	yes	no						
Initiate Wide Negotiation	yes	no						
Send Start Unit Command	yes	no						
Include in BIOS Scan	yes	no						
SCSI Device ID #1								
Initiate Sync Negotiation	yes	no						
Maximum Sync Transfer Rate	40.0	32.0	26.8	20.0				
Enable Disconnection	yes	no						
Initiate Wide Negotiation	yes	no						
Send Start Unit Command	yes	no						
Include in BIOS Scan	yes	no						
SCSI Device ID #2								
Initiate Sync Negotiation	yes	no						
Maximum Sync Transfer Rate	40.0	32.0	26.8	20.0				
Enable Disconnection	yes	no						
Initiate Wide Negotiation	yes	no						
Send Start Unit Command	yes	no						
Include in BIOS Scan	yes	no						

4.7 コンフィグレーション・シート

設定項目	設定値				
SCSI Device ID #3					
Initiate Sync Negotiation	yes	no			
Maximum Sync Transfer Rate	40.0	32.0	26.8	20.0	
Enable Disconnection	yes	no			
Initiate Wide Negotiation	yes	no			
Send Start Unit Command	yes	no			
Include in BIOS Scan	yes	no			
SCSI Device ID #4					
Initiate Sync Negotiation	yes	no			
Maximum Sync Transfer Rate	40.0	32.0	26.8	20.0	
Enable Disconnection	yes	no			
Initiate Wide Negotiation	yes	no			
Send Start Unit Command	yes	no			
Include in BIOS Scan	yes	no			
SCSI Device ID #5					
Initiate Sync Negotiation	yes	no			
Maximum Sync Transfer Rate	40.0	32.0	26.8	20.0	
Enable Disconnection	yes	no			
Initiate Wide Negotiation	yes	no			
Send Start Unit Command	yes	no			
Include in BIOS Scan	yes	no			
SCSI Device ID #6					
Initiate Sync Negotiation	yes	no			
Maximum Sync Transfer Rate	40.0	32.0	26.8	20.0	
Enable Disconnection	yes	no			
Initiate Wide Negotiation	yes	no			
Send Start Unit Command	yes	no			
Include in BIOS Scan	yes	no			
SCSI Device ID #7					
Initiate Sync Negotiation	yes	no			
Maximum Sync Transfer Rate	40.0	32.0	26.8	20.0	
Enable Disconnection	yes	no			
Initiate Wide Negotiation	yes	no			
Send Start Unit Command	yes	no			
Include in BIOS Scan	yes	no			
SCSI Device ID #8					
Initiate Sync Negotiation	yes	no			
Maximum Sync Transfer Rate	40.0	32.0	26.8	20.0	
Enable Disconnection	yes	no			
Initiate Wide Negotiation	yes	no			
Send Start Unit Command	yes	no			
Include in BIOS Scan	yes	no			
SCSI Device ID #9					
Initiate Sync Negotiation	yes	no			
Maximum Sync Transfer Rate	40.0	32.0	26.8	20.0	
Enable Disconnection	yes	no			
Initiate Wide Negotiation	yes	no			
Send Start Unit Command	yes	no			
Include in BIOS Scan	yes	no			

第4章 セットアップ

設定項目	設定値				
SCSI Device ID #10					
Initiate Sync Negotiation	yes	no			
Maximum Sync Transfer Rate	40.0	32.0	26.8	20.0	
Enable Disconnection	yes	no			
Initiate Wide Negotiation	yes	no			
Send Start Unit Command	yes	no			
Include in BIOS Scan	yes	no			
SCSI Device ID #11					
Initiate Sync Negotiation	yes	no			
Maximum Sync Transfer Rate	40.0	32.0	26.8	20.0	
Enable Disconnection	yes	no			
Initiate Wide Negotiation	yes	no			
Send Start Unit Command	yes	no			
Include in BIOS Scan	yes	no			
SCSI Device ID #12					
Initiate Sync Negotiation	yes	no			
Maximum Sync Transfer Rate	40.0	32.0	26.8	20.0	
Enable Disconnection	yes	no			
Initiate Wide Negotiation	yes	no			
Send Start Unit Command	yes	no			
Include in BIOS Scan	yes	no			
SCSI Device ID #13					
Initiate Sync Negotiation	yes	no			
Maximum Sync Transfer Rate	40.0	32.0	26.8	20.0	
Enable Disconnection	yes	no			
Initiate Wide Negotiation	yes	no			
Send Start Unit Command	yes	no			
Include in BIOS Scan	yes	no			
SCSI Device ID #14					
Initiate Sync Negotiation	yes	no			
Maximum Sync Transfer Rate	40.0	32.0	26.8	20.0	
Enable Disconnection	yes	no			
Initiate Wide Negotiation	yes	no			
Send Start Unit Command	yes	no			
Include in BIOS Scan	yes	no			
SCSI Device ID #15					
Initiate Sync Negotiation	yes	no			
Maximum Sync Transfer Rate	40.0	32.0	26.8	20.0	
Enable Disconnection	yes	no			
Initiate Wide Negotiation	yes	no			
Send Start Unit Command	yes	no			
Include in BIOS Scan	yes	no			

(3) Advanced Configuration Options

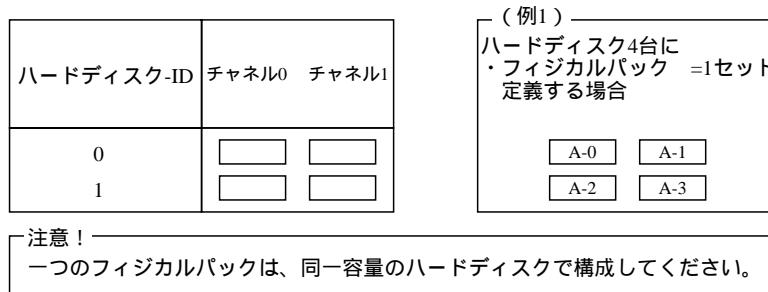
設定項目	設定値		
Reset SCSI Bus at IC Initialization	Enabled	Disabled	
Host Adapter BIOS (Configuration Utility Reserve BIOS) Space	Enabled	Disabled	
Support Removable Disks Under BIOS as Fixed Disks	Boot Only	All Disks	Disabled
Extended BIOS Translation for DOS Drives > 1GByte	Enabled (WindowsNT Server の場合) Disabled (IntranetWare/NetWare の場合)		
Display <Ctrl-A> Message During BIOS Initialization	Enabled	Disabled	
Multiple LUN Support	Enabled	Disabled	
BIOS Support for Bootable CD-ROM	Enabled	Disabled	
BIOS Support for Int13 Extensions	Enabled	Disabled	
Support for Ultra SCSI Speed	Enabled	Disabled	

SCSIアレイコントローラカード：RAID設計シート

1) ハードディスクの掲載位置と設定

搭載ハードディスクペイ	この位置にハードディスクを搭載しましたか？	チャネル (固定)	SCSI-ID (固定)	ハードディスクの 製品名 (GP5-HD****)	ハードディスクの 容量 (****MB)
ペイ1(サイドディスクペイ)	◀ 有・無	◀ 0	ID=0	()	() MB
ペイ2(サイドディスクペイ)	◀ 有・無	◀ 0	ID=1	()	() MB
ペイ3(フロントディスクペイ)	◀ 有・無	◀ 1	ID=0	()	() MB
ペイ4(フロントディスクペイ)	◀ 有・無	◀ 1	ID=1	()	() MB

2) フィジカルパックの定義



3) システムパックの定義

システムドライブNo.	RAIDレベル	容量	キャッシュモード
0	0 · 1 · 5	() MB	ライトスルー・ライトバック
1	0 · 1 · 5	() MB	ライトスルー・ライトバック
2	0 · 1 · 5	() MB	ライトスルー・ライトバック
3	0 · 1 · 5	() MB	ライトスルー・ライトバック

システムドライブNO	RAIDレベル	容量	キャッシュモード
0	0 · 1 · ⑤	() MB	ライトスルー・ライトバック

注意！
同一フィジカルパック内に、RAID0と他のRAIDレベルのフィジカルパックを混合して作成しないでください。リビルドできなくなります。

4.8 LANDesk Server Manager について

本サーバには、LANDesk® Server Manager software (以下 LDSM と呼びます) が添付されています。LDSM を使用すると、本サーバの動作環境やメモリの状況を常時監視することができます。また、万一異常が発生した場合には監視コンソールへの通知が可能となり、異常要因に対してすばやく対応することができます。

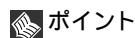
本サーバでは LDSM を必ずインストールしてご使用ください。

使用しない場合には、以下のようないくつかの問題が発生する場合がありますのでご注意ください。

- SCSI アレイコントローラカードを使用し、アレイシステム (RAID5) を構成している場合に、あるハードディスクユニットが故障したにもかかわらず、これに気づかないで運用を続け、さらに他のハードディスクユニットが故障した場合には、サーバ本体内部のすべてのファイルが紛失および破壊されます。
- オプションの電源ユニットを追加し、冗長電源機能をサポートしているサーバにおいて、1つの電源ユニットが故障したにもかかわらず、これに気づかず運用を続けて、さらに他の電源ユニットが故障した場合にはサーバは動作しなくなります。

LDSM は、本サーバに OS がインストールされた後 (OS インストールタイプでは、ハードディスクからの OS 起動後、正しく環境設定が終了した後) インストールする必要があります。LDSM のインストール方法、使用方法については、以下のマニュアルおよびオンラインマニュアルを参照してください。

- 「LANDesk® Server Manager をお使いになる前に」(オンラインマニュアル含む)
- 「GRANPOWER5000 モデル 170 追加ディスク L10(LANDesk Server Manager v2.52 用)をお使いになる前に」



ディスクアドミニストレータからのディスクボリューム削除時の注意

ディスクアドミニストレータからディスクボリュームを削除する場合には以下の手順にしたがって、操作します。

- 1) コントロールパネルから「サービス」を選択します。
- 2) "Intel Server Monitor"の表示の有無を確認します。
本サービスが表示されていない場合には、「サービス」画面を閉じて処理を終了してください。以降の操作は本サービスが表示されている場合にのみ行います。
- 3) "Intel Server Monitor"を選択して「停止」ボタンをクリックしてサービスを停止します。
- 4) 「サービス」画面を閉じます。
- 5) ディスクアドミニストレータから、ディスクボリュームを削除します。
- 6) コントロールパネルから「サービス」を再度選択します。
- 7) "Intel Server Monitor"を選択して「開始」ボタンをクリックしてサービスを再開します。
- 8) 「サービス」を閉じます。